



SENKO

CSR報告書

環境・安全・社会への取り組み

moving
global



2011

Moving

コーポレートスローガン

物流を超える、 世界を動かす、 ビジネスを変える。

Contents

ごあいさつ		02
経営とCSR	事業概要	05
特集1	企業目標とCSR方針	07
センコーの Moving Global	コーポレート・ガバナンスとコンプライアンス	09
環境とのかかわり	環境方針	15
特集2	環境影響の全体像	16
センコーの エコロジスティクス戦略	センコーの環境目標と成果	17
	センコーEcoイノベーション2012の紹介	18
	地球温暖化防止への取り組み	19
	物流サービス・効率化への取り組み	20
	物流施設・事務所での取り組み	21
	環境法令対応・環境認証取得の状況	22
安全への取り組み	安全活動方針	26
特集3	安全目標	27
センコーの 安全品質向上活動	安全管理への取り組み	28
	充実の安全教育・技能向上への取り組み	29
	安全活動の評価・達成状況	30
社会とのつながり	快適な職場環境づくり	31
	地域での社会貢献活動	33
	社会から信頼されるセンコーであるために	37

■編集方針及び報告の範囲

センコーは、2005年度より3回「環境・安全報告書」を発行してきました。2008年度よりCSR推進委員会を新設し、従来より経営の最重要事項と位置づけていました「環境保全」「交通安全対策」を含めたCSR活動の取組領域を明確にしたことを契機に「CSR報告書」として発行しています。

編集方針は次の通りです。

- (1) センコーの特徴的なCSR活動を「特集」として紹介しています。
- (2) 記載対象範囲は、センコー株式会社ならびに一部グループ会社の活動も含みます。
- (3) 記載対象期間は、2010年4月～2011年3月までの事業活動ですが、一部2011年4月以降のものも掲載しています。
- (4) 環境の報告は、環境省の「環境報告ガイドライン(2007年版)」を参考にしております。

このたびの東日本大震災によって、犠牲となられた皆さまに、深く哀悼の意を表すとともに、被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復興がなされますよう、お祈り申し上げます。



このマークの掲載されている箇所は過去の取り組みの成果や進捗などを継続的に報告しています。

Global

Message ごあいさつ

「グローバル」にステージを拡げ、 社会に貢献できる事業を推し進めます。

センコーグループは前中期経営計画を終え、
景気後退の影響で物量が減少するなか着実な成長を続けています。

これは、総力を上げ注力してきた「現場力」及び「営業力」の向上によるものと捉えています。

当社グループではさらなる成長を遂げるために、
『Moving Global』をスローガンに掲げた新・中期経営計画を2010年度よりスタートさせました。

このMoving Globalは、世界規模でダイナミックに変化するビジネス市場を、

日本の卓越した情報・物流品質で支える決意を表したものです。

これからの3年間で、海外事業の売上比率を10%まで引き上げることを目標に、

大型物流拠点の開設や海外国家プロジェクトへの参画など、世界を舞台とする事業を積極的に展開し、
成長のためのチェンジ&チャレンジ(変革と挑戦)を重ねて、大きく飛躍していきたいと考えています。

このような事業活動は、当社グループとつながる皆様のご支援があればこそと深く認識しております。

社会と共生し、社会的責任を果たしていくことは企業にとって最も大切なことです。

そのため「法令遵守」「環境対応」「安全重視」をCSRの3本柱と位置づけ、

深刻化する環境問題に対しては

トンキロ当たりの燃料使用量及びエネルギー使用量を年次1%削減、

安全面では交通事故・労災事故2009年度比30%削減という目標に向けた取り組みを

実行するとともに、適法性と透明性の高い企業風土を醸成してまいります。

また2010年には社会貢献活動の一つとして、「センコー スクールファーム鳥取」を設立。

地域活性化や雇用創出につながる福祉型農業ビジネスにも着手し

事業を拡大していく予定です。

当社のグループ企業は現在66社ありますが、

それぞれの強みを発揮することで、グループ全体での成長を目指しています。

この「グループ全体」には、従業員、パート・アルバイトの皆様、

協力会社の方々など、当社の事業を支えるすべての方が含まれます。

物流のプロ集団として意欲を持って安全に働ける環境を創ることはもとより、

協力会社の皆様とは共に発展していくより強い関係を築いてまいります。

また、センコーは今年創立65周年を迎えます。

皆様のご厚情に感謝するとともに、これからもご信頼に応えられる企業であるべく

努力を重ねてまいります。当社グループの取り組みをご理解いただき、

一層のご支持・ご鞭撻をいただけますようお願い申し上げます。

センコー株式会社

代表取締役社長

CSR推進委員会委員長 福田 泰久



特集 01

センコーのMoving Global

国際力を強化し、

世界

お客様のSCM※全般の効率化を支援するロジスティクスのベストパートナーであり続けたい。その想いのもと、センコーでは『Moving Global』をスローガンに掲げ、海外事業比率10%という目標に向け新たなチャレンジを始めています。2010年度は、大型物流拠点の開設や海外国家プロジェクトへの参画など新たな国際事業がスタート。世界を動かすセンコーへ。グローバル化が顕著となる今、国際物流事業を通して社会及びお客様のニーズに応えたいと考えています。

※SCM(サプライチェーン・マネジメント)／ビジネスプロセスの全体最適を目指す戦略的な手法・IT情報システム

KAZAKHSTAN

カザフスタン

「21世紀のシルクロード」構築を目指し、カザフスタンの国家プロジェクトに参画

カザフスタン・中国の国境にまたがるホルゴスで展開される、産業・貿易振興を目的とした両国家間の共同国家プロジェクトに参画。現地企業ランカスターインフラストラクチャーと合併で物流センターを建設し、2011年秋に完成予定です。センターの総面積は現在建設中のものは6,000㎡で、将来的には22,000㎡。入国側トラックへの貨物の積み替え、通関、通関待ち貨物の一時保管業務を行います。ビザなしで入出国が許可される経済特別開発区であるため、従来必要とされた運転手のビザ取得が不要。税関の設置により通関諸手続きも迅速化され、輸送のコスト削減と効率化がはかれます。ユーラシア大陸の中央に位置する国際ハブ拠点として、今後重要性が増すカザフスタン。センコーでは、他都市でも物流センター開発を積極的に進める予定です。



カザフスタン・シルクロード
ロジスティクスセンター

AUSTRALIA

を動かすセンコーへ。

CHINA

中国

中国・青島に物流センター開設 日中一貫ファッション物流を拡大します

センコーは国内物流のみならず中国物流においても、ファッション物流におけるサプライチェーンの効率化を図っています。大連の「大連保税地区貝思特国際貿易物流有限公司」では、税的優遇のある物流園区のメリットを活かした、アパレル検品、検針等の流通加工業務も担う物流センター事業を展開。2011年1月には大連第2物流センターも完成し、日系企業の流通効率化に貢献しています。

また2010年6月には、青島にセンコー、蝶理株式会社、青島雪達集团有限公司の3社で合弁会社を設立。雪達グループをはじめ、青島地区で製造される日本や欧米向けアパレル製品の一貫物流システムを構築しています。オペレーションの基幹情報システムを導入し、トラック輸送や保管・仕分け業務などを効率化。グローバルに事業展開する世界企業を対象とした海外物流センター事業を今後さらに充実させていきます。

■「海外安全研修」を中国各地で開催

海外拠点での安全品質の統一化を図る「安全研修」を上海、青島、大連で開催しました。それに先駆け上海オフィスで、上海、大連、杭州、広州各拠点の代表者及び現地スタッフ約30名が集う事前説明会を実施。中国での「センコー流」の徹底と浸透に努めています。



研修では中国語に翻訳した「センコー流」基礎技能テキストを配布



大連第2物流センター



青島物流センター

AUSTRALIA

オーストラリア

お取引先様の海外展開に対応した 「住宅物流事業」を拡大していきます

オーストラリアで初の現地法人を立ち上げ、2010年5月より住宅物流事業を開始しています。これは積水ハウス株式会社様の海外事業展開に伴ったもので、物流業務を一貫受託し、現地では輸入資材の通関から工場までの海上輸送、工場内作業、出荷時の邸別ピッキング、施工現場への配達まで、日本と同水準の品質によるサービスを提供しています。また輸入品が大半である住宅資材に関しては、将来的には中国、カンボジア、タイ、ベトナムなどのアジア諸国にも現地法人を設立し、現地の商品を国内メーカーに供給する調達物流も拡充していく考えです。



国内トップシェアの住宅物流サービスを海外でも展開

センコーの事業概要

創造的ロジスティクスへの挑戦を通じ、社会に貢献します。

流通情報企業としてSCMを支援・実現するために、ITを駆使したシステムで最適な流通ソリューションを提供。物流を超える、世界を動かす、ビジネスを変える、そして社会の発展に寄与する事業を展開しています。

センコー主力3事業



流通ロジスティクス分野

流通SCMの事業領域を拡大し様々な課題に対応

全国に広がる物流センターネットワークの活用、ICTを駆使した先進のシステム物流で、「量販・小売分野」の物流効率化を実現。また情報と商品の流れを一元管理し「アパレル分野」の物流を効率化。「医療・医薬・介護分野」においても、ベストなソリューションを提供しています。



住宅分野

物流のシステム化でトータルコスト削減に貢献

住宅資材の調達から、施工進捗に合わせたジャスト・イン・タイム配送まで、センコーは住宅メーカー様のSCMに関わる全てのニーズに対応。日本でもトップクラスの実績とノウハウを有しています。



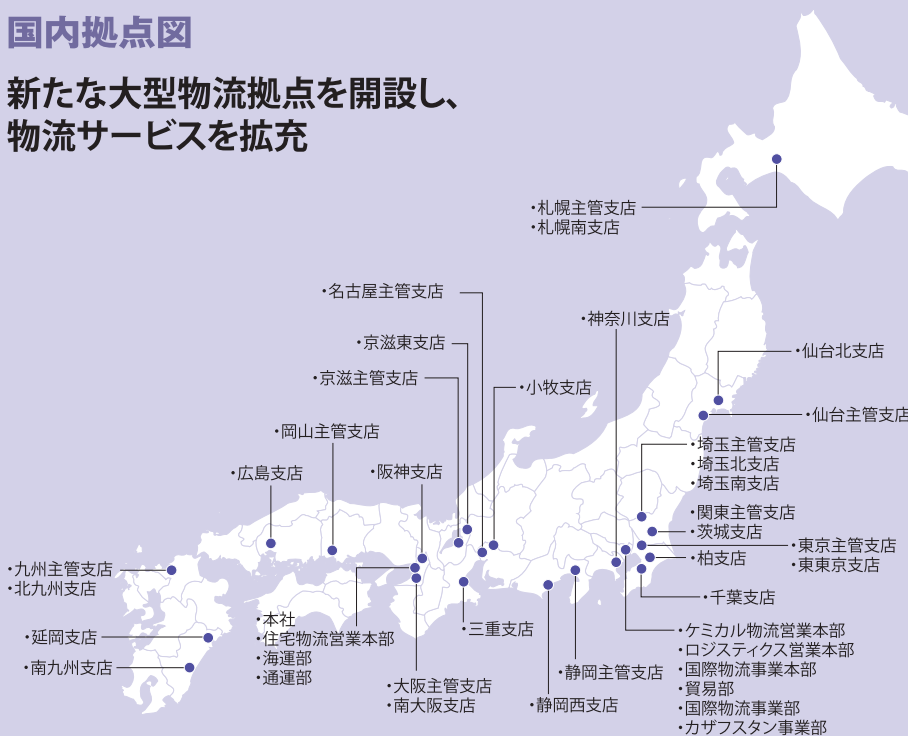
石油化学・樹脂分野

蓄積したノウハウを活かし、物流効率化を支援

工場内物流から保管、エンドユーザー配送まで、創業以来培った豊富なノウハウで、多彩なシステム物流を展開しています。また物流アウトソーシング等、付加価値物流の提案を積極的に行っています。

国内拠点図

新たな大型物流拠点を開設し、物流サービスを拡充



金沢PDセンター



舞洲PDセンター



新戸田PDセンター

会社概要 ※平成23年3月31日現在(グループ勢力合計)

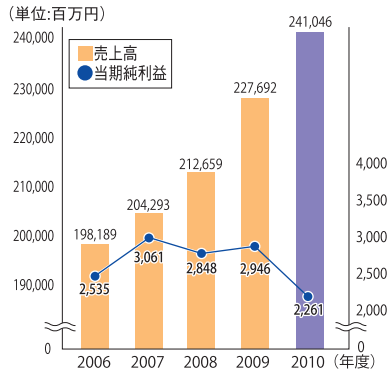
商号	センコー株式会社 (Senko Co.,Ltd.)
資本金	20,521,133,751円
創業	大正5年9月
設立	昭和21年7月
本社	〒531-6115 大阪市北区大淀中一丁目1番30号 TEL.06-6440-5155 (代表)
代表者	代表取締役社長 福田 泰久
事業所	317箇所
グループ会社数	66社
従業員数	8,074名
貨物自動車	3,145台
支配船舶	19隻
倉庫	2,078,957平方メートル
URL	http://www.senko.co.jp

主要サービス

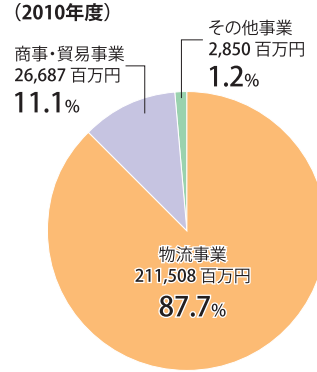
センコー	貨物自動車運送事業
	国際物流事業
	倉庫事業
	海上運送事業
	鉄道利用運送事業
	小運搬構内作業

センコーグループ事業データ

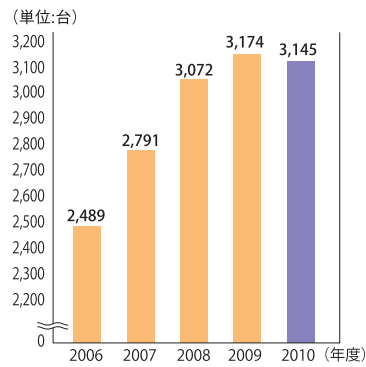
連結売上高／当期純利益の推移



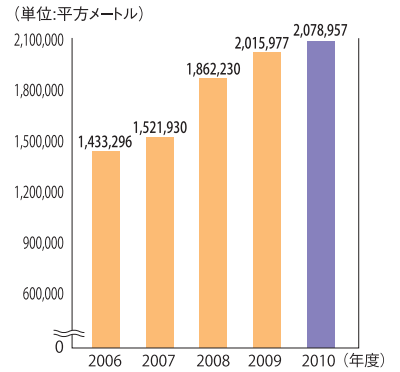
連結セグメント別売上高



車両台数(連結)



倉庫総面積(連結)



海外拠点図

“世界”をネットワークする 国際物流事業をさらに拡大



企業目標とCSR方針

グループ全体で、社会と共生を図る企業を目指して。

センコーの事業の中核を成す物流事業は高い公共性を持ち、事業活動を通して社会に貢献することは企業の使命であると捉えています。新・中期経営計画が2010年度からスタートしましたが、この「CSR(社会的責任)経営」を重点課題に掲げて、コンプライアンスの徹底、環境保全、安全確保を重視した取り組みを進めています。

「中期経営計画」を着実に推進していきます

中期経営計画でセンコーは、新たなコーポレートスローガン『Moving Global』を制定。国際力を強化することでさらなる成長を遂げていく考えです。またグループの総力を結集して、高品質でコストパフォーマンスの高いサービスをグローバルに提供する事業を展開。主力3事業の収益拡大に努めるとともに、社会から信頼される企業活動を行い、企業価値の向上を図ります。

■ コーポレートスローガン

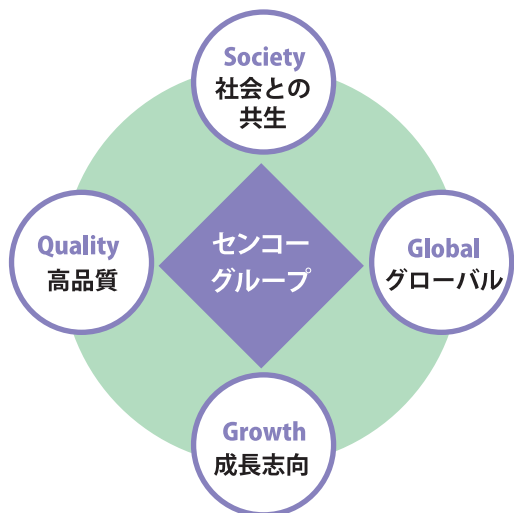
ムービンググローバル

Moving Global

物流を超える、
世界を動かす、
ビジネスを変える

■ 中期グループビジョン

グループ全体で社会との共生を図り、
従業員の成長志向を育む中、
高品質でコストパフォーマンスの高いサービスを
グローバルに提供する。



■ 中期グループ経営方針

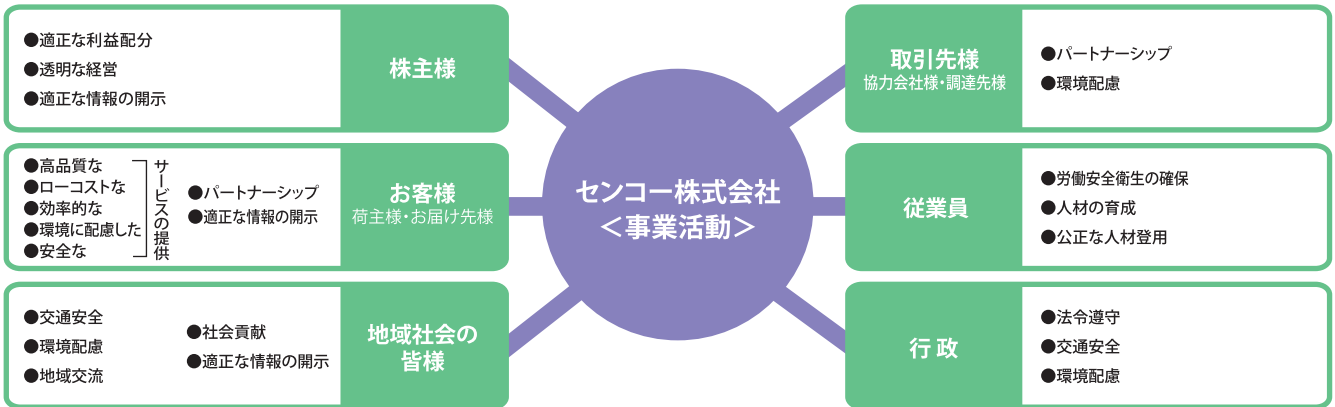
中期経営計画では目標実現に向けた5つの経営方針を制定しています。

- 1 国内外で、お客様の要望に応え、
新たな市場の創出に取り組む
 - 顧客の「グローバルな成長戦略」への対応を強化
 - 「国内の成長分野」への取り組みを強化
- 2 グループ総体で効率性の追求を図り、
高品質でコストパフォーマンスの高い
サービスを提供する
 - 重点施策→収益体制の強化、CS向上、情報化の推進
- 3 法令遵守、環境対応、安全重視の3つを
CSRの柱と位置づけ、活動を充実する
- 4 グループ人材の意欲と健康の向上・能力アップ
に向け、制度・環境整備を進める
 - 重点施策→人材育成の強化、健康活動の推進、
人事・賃金制度の構築
- 5 財務健全性の確保に重点を置いた
財務施策を推進する

CSR「企業の社会的責任」の強化に努めます

全てのステークホルダーから信頼していただける企業風土を創造するために、センコーグループでは、「法令遵守」「環境対応」「安全重視」をCSR経営の柱と位置づけた活動を続けています。新・「中期経営計画」では、社会的ニーズに呼応する以下の取り組みに注力。CSR推進委員会を中心に、全従業員が高い意識を持って取り組むことで、事業を通じた社会貢献を果たしていきたいと考えています。

センコーの事業とステークホルダー



■ センコーの重要施策

「法令遵守」体制の高度化

企業の継続的な事業運営、企業の存続に関わる適法性と透明性の確保を徹底。内部統制活動の運用体制の高度化を推進するとともに、リスクマネジメント体制を構築することで、企業の社会的責任を全うします。

P9～10をご覧ください

「環境対応」施策の推進

物流業が環境に対して果たすべき役割は多大であると認識し、数値目標を掲げてCO₂削減と省エネルギー施策、グリーン物流を推進。環境先進企業を目指した「センコーEcoイノベーション2012」活動を推進します。

P11～22をご覧ください

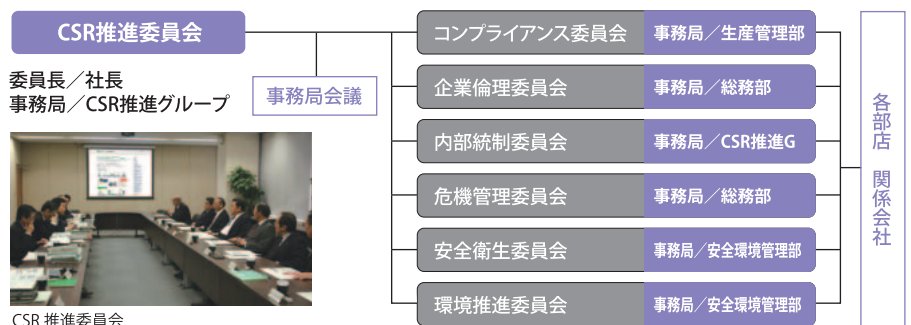
「安全重視」体制の確立

「完全0災職場の確保」の実現に向けて、車両事故・労働災害発生率2009年度比30%削減の中期目標を設定。安全マネジメントシステムのPDCAサイクルを通じて、管理・業務リスクの発見と低減に努めます。

P23～30をご覧ください

■ CSR経営の推進体制

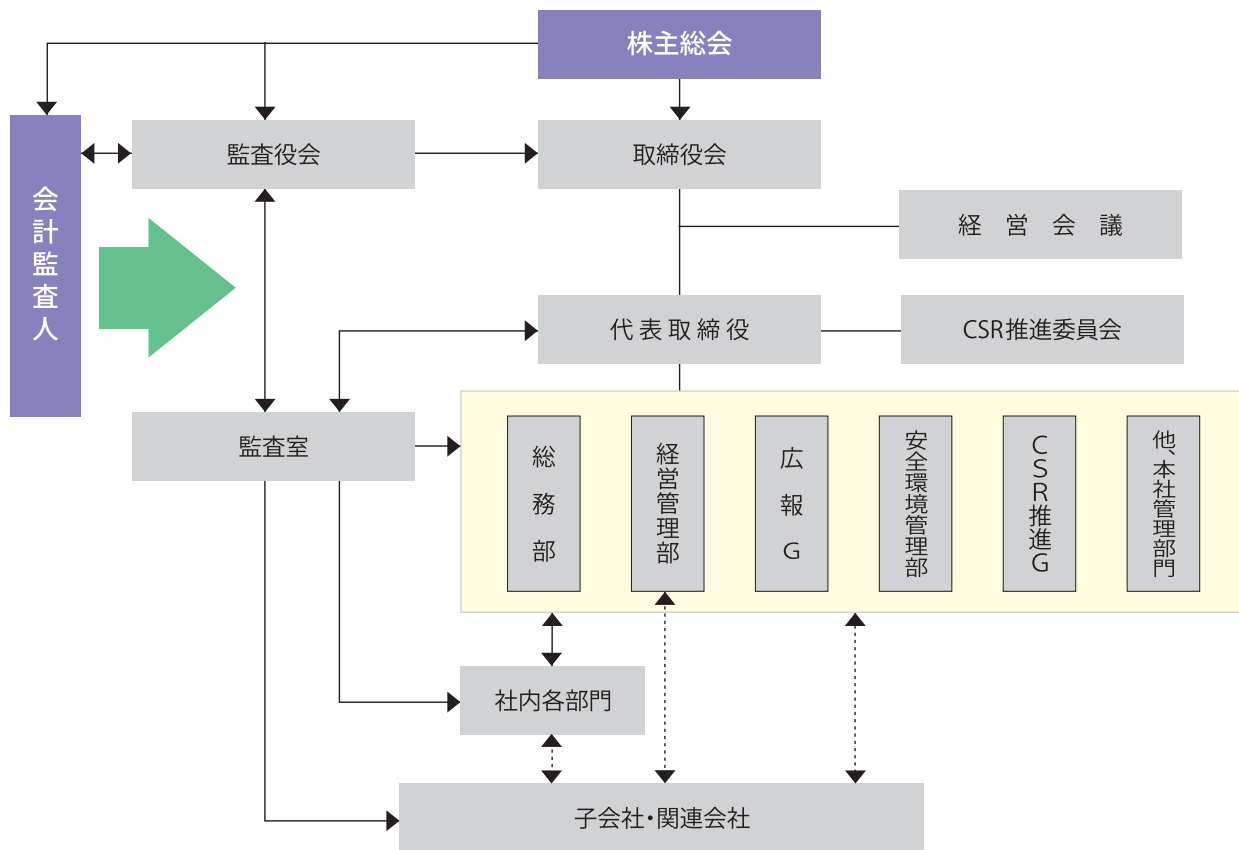
CSR推進委員会は「コンプライアンス」「企業倫理」「内部統制」「危機管理」「安全衛生」「環境推進」の各委員会で組織されています。社会的責任の領域を明確化し、活動の充実と深化を図っています。各委員会で立案された内容を審議して年度活動計画等を決定、また各委員会の指導を行う役割を果たしているのがCSR推進委員会です。



コーポレート・ガバナンスとコンプライアンス

コーポレート・ガバナンスの考え方と体制

企業存立の基盤であり、経営の最重要課題の一つに位置づけられるのがコーポレート・ガバナンスです。センコーグループはその考えのもと公共性の高い物流事業を行う企業として、コンプライアンス（法令遵守）に徹した企業行動に努めています。

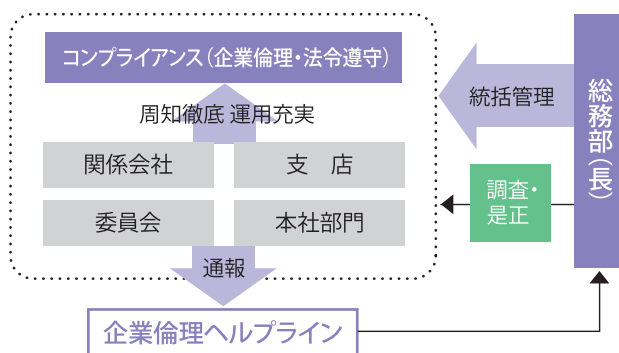


【業務執行と監査・監督】

- ①取締役会は、毎月1回以上開催しており、法令で定められた事項の他、経営に関する重要事項を決定するとともに、業務執行を監督する機関として位置づけております。また、執行役員制度を導入し、取締役会の機能強化に向けた「経営の意思決定・監督」と「業務執行」の各機能の分離、双方の機能強化と責任の明確化を図るとともに、執行役員も出席する経営会議を設置し、業務執行状況の検証を行い、より透明度の高い経営の実現を図っております。
- ②監査役は、取締役会に出席し、取締役の業務執行を客観的立場から監視するとともに、内部監査部門である監査室及び会計監査人と連携し、子会社も含めたコンプライアンスの徹底を図るとともに、厳正な監査を実施しております。

コンプライアンス経営

センコーグループは誠実で公正な経営を旨とし、法令を遵守し倫理にかなった事業活動を行っています。これは企業が社会的責任を果たし、ステークホルダーから信頼を得る上で最も基本的なことです。既に制定・設置している「センコー企業行動基準」、「センコーグループ企業倫理委員会」、「企業倫理ヘルプライン」については、総務部の統括管理のもと各担当部門において周知徹底と運用の充実を図り、また重要事項については取締役会が指針や内容を決定するなど、コンプライアンス体制をより強固なものとし、社会的信用の向上を図っています。



リスク管理体制の構築と推進

企業が遭遇する種々に渡るリスクに対しては、万一の緊急事態が発生した場合は人命優先、物的損害（経営損失）の軽減、業務の早期再開、社会的信用の維持、地域社会への支援と貢献の観点からの対応策を実施する「リスクマネジメントシステム」を構築しています。

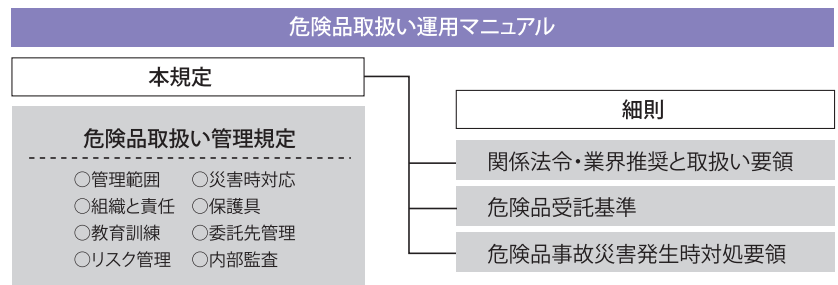
その取り組みの一環として、2010年度は「リスクマネジメント教本」「危険品取扱い運用マニュアル」等を策定し、適切なコンプライアンス（法令遵守）と社会的責任の確立に努めています。

■ リスクマネジメント教本の作成

センコーの「企業行動憲章（基準）」を具体的な行動につなげるために、法令等の解説、管理ポイント、他社事例、及び過去に発生したセンコーグループのリスク事例を簡潔にまとめた「リスクマネジメント教本」を作成しました。事業運営に潜む危険（リスク）を理解し、危機（クライシス）に発展させることのないよう管理を徹底させます。また、教本を活用したコンプライアンス教育も今後充実させていく予定です。

■ 危険物管理システムの構築

化学製品等の危険物、毒物、劇物の輸送・取り扱いについては、「企業の社会的責任の増大」「物流セキュリティ対策」さらに「新たな化学製品類の出現」や「国際物流の増加」などを受け、従来各現場で対応していた危険物管理を、全社で一元管理できるシステムを構築。他社にない精度の高い危険物管理システムを構築することで、荷主様にローリスクな物流システムを提供しています。



個人情報の保護について

個人情報の保護は、集荷・発送の依頼などお客様の個人情報をお預かりするセンコーの責務と考え、情報セキュリティポリシーの制定をはじめとした情報保護体制を徹底しています。

■ プライバシーマーク[※]の取得

センコー情報システム（株）、センコービジネスサポート（株）のプライバシーマーク取得（2010年1月）に続き、センコー商事（株）が2010年10月に新たに取得しました。また、新たにグループ入りした江坂運輸（株）が2006年2月に、イヌイ運送（株）が2006年5月にそれぞれ取得済です。

[※]個人情報の取り扱いに特化したマネジメントシステム

■ ISO27001[※]の追加取得

情報セキュリティの強化を経営方針に掲げるセンコー情報システム（株）が、2009年10月の大阪事務所認定に続き、2010年9月に東京・熊本各事業所が同時認定を受けました。また2011年には、2010年7月新たに開設した延岡事業所へも認定範囲を拡大していきます。

[※]個人情報だけでなく組織が保有する全ての情報リスクを管理するマネジメントシステムの国際規格

Topics

万全の個人情報保護体制を整えた新拠点「SBSフォーラム延岡」

2010年6月に、センコービジネスサポート（株）の新拠点が宮崎県延岡市に完成しました。ここ「SBSフォーラム延岡」では、経理、人事、医療など事務処理アウトソーシングを請け負う他、コールセンター事業にも本格参入。お客様の事務処理やデータ処理を安心・安全・効率的に行うための、高度なセキュリティ体制が整えられています。2011年には、セキュリティ体制の強みを生かし、自治体クラウド[※]業務にも進出します。

[※]自治体が行う、業務関連システムのクラウドコンピューティング運用のこと。自治体クラウドは、住民の基礎台帳、税務、保険などの基幹システムを複数の市町村を統合したデータセンターに統合し、これを共同利用することで効率化を目指すもの。総務省、各自治体で取り組みが本格化している。



フラッパーゲートなどセキュリティ設備を導入



屋上緑化や太陽光発電を採用し環境にも配慮

特集 02

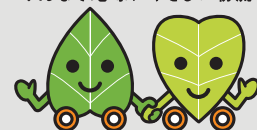
センコーのエコロジスティクス戦略

グリーン物流を推進し、 環境負荷の低減に努めます。

エネルギー効率が高くCO₂排出量を大幅低減できる鉄道、海上輸送を組み合わせたモーダルシフトの活用や荷主様との協働による「グリーン物流パートナーシップ事業※」への取り組みを強化するなど、物流の効率化を推し進めています。

※荷主企業と物流事業者の連携による温室効果ガス排出抑制取り組みを経済産業省・国土交通省が支援。実施計画が「エネルギー使用合理化事業者支援事業」として認定されると助成制度を利用できます。

みんなで地球にやさしい物流を



グリーン物流パートナーシップ

モーダルシフトへの取り組み

事例1 荷主様／積水ハウス 株式会社 様

業界初、JRコンテナによる住宅部材の輸送を実現

静岡工場から山口工場・東北工場へ。住宅部材のトラック輸送を、環境負荷低減に最も優れた鉄道を組み合わせたモーダルシフトに転換。工場生産製品のJR大型コンテナでの輸送は業界では初の試みとなります。積水ハウス様のご協力によるこの事例を基に、センコーはグリーン物流の展開を業界全体に拡大していく考えです。



31ftの大型コンテナ2基を新造、リードタイムの厳しい住宅部材を鉄道輸送

省エネルギー率

47.9%

CO₂削減量

162.24 t-CO₂/年

東北工場:89.44t→24.96t / 山口工場:149.76t→52t



CSR VOICE <お客様の声>



積水ハウス(株)静岡工場 物流部長 遠藤 和宏 様

積水ハウスは、住宅業界初となる環境省認定の「エコ・ファースト企業」として、2010年1月より政府が進めている温暖化防止のための国民運動「チャレンジ25」にいち早く参加し、CO₂等の温室効果ガス排出量の抑制・削減に向けて積極的に取り組んでいます。

その一環として、当工場で集中生産している鉄骨軸組みの東北工場・山口工場への輸送をトラックから環境負荷の低い鉄道にモーダルシフトするというセンコーさんの提案を受入れ、業界でも例のない31フィートオリジナルコンテナを使用して2011年1月にその運用を開始いたしました。この取り組みは、「グリーン物流パートナーシップ会議」と「NEDO」の推進事業として認定を受け、年間162.24トンのCO₂排出量削減が見込まれます。今後も物流パートナーであるセンコーさんの協力を得て、他工場への部材輸送についてもモーダルシフトを進めていきたいと考えております。



拠点集約の取り組み

事例2 荷主様／SRIロジスティクス 株式会社 様

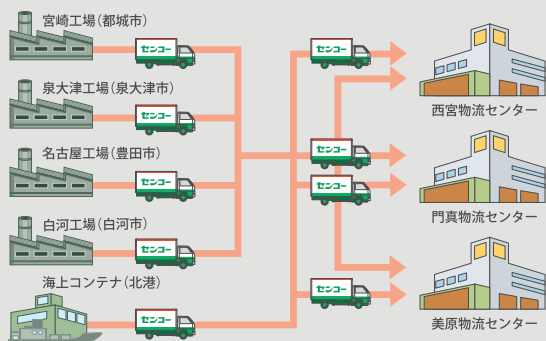
拠点を舞洲PDセンターに集約し、 輸送距離を削減

センコー門真、他社西宮、他社美原各流通センターに分散していたタイヤの輸送3拠点を、2010年9月に完成したセンコー舞洲PDセンター（大阪市此花区）に集約。舞洲PDセンターでの入出庫の一元管理により転送出荷や交錯輸送を削減し、年間延べ3万kmの輸送距離を削減することができます。



お客様の製品は当社関西地区最大の「舞洲PDセンター」で一元管理

改善前 輸送拠点が各地に分散



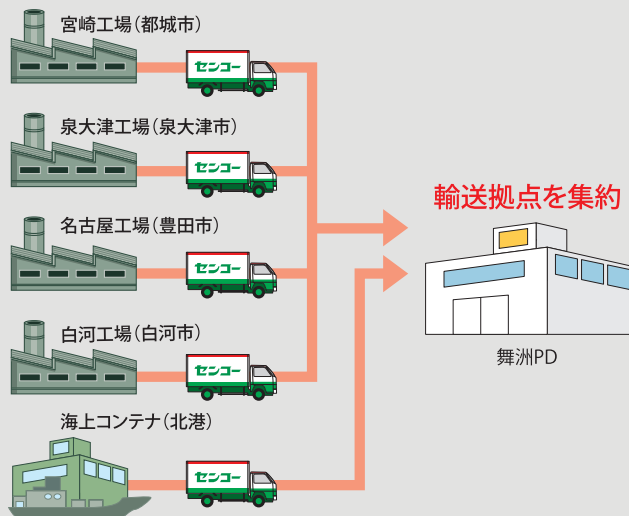
省エネルギー率

11.2%

CO₂削減量

302.6 t-CO₂/年

改善後 拠点(倉庫)を集約し、 入庫1本化及び転送出荷・交錯輸送の削減を図る



CSR VOICE <お客様の声>

SRIロジスティクス(株) 田路 秀男 社長



SRIロジスティクス(株)は、住友ゴムグループの物流子会社で、タイヤ・スポーツ用品の物流を担当しています。一昨年、住友ゴムグループは、エコファースト企業として認定を受け、環境にやさしい商品づくりはもとより企業活動そのものにも活動を展開しております。

物流部門では、「グリーン物流ガイドライン」を策定し、グリーン物流への取り組みを物流企業の皆様と協力して進めています。その

取り組みの一つとして、'07年より市販用タイヤの全国流通センターを、23拠点から11拠点へ集約・統合する活動を実行してきました。今回、その仕上げとなる関西地区の統合を、センコー(株)様のご協力を得て完結することができました。従来の倉庫(3ブランド3拠点)を1つに集約・統合する巨大プロジェクトで、設計から実施まで約1年の歳月を要しました。この集約により、生産工場からの供給効率の向上はもちろんのこと、複数倉庫での在庫偏在と倉庫間移動の撲滅に加え、お客様への配達集約と効率化が図れ、グリーン物流促進とコスト削減を実現することができました。また、お客様目線に立ったサービス体系の構築も実施することができ、大変満足しております。今後、新倉庫を基点に、更なるグリーン物流促進と、サービス向上、コスト削減を展開していきます。ご協力をよろしくお願いいたします。

環境負荷の削減成果が評価され 「第7回エコプロダクツ大賞」の 国土交通大臣賞を受賞しました

ケミカル物流において、センコーは独自の「バルクコンテナ一貫物流システム」を構築し、環境負荷を飛躍的に低減しています。

この取り組みが評価され、エコプロダクツ大賞推進協議会が主催する

「第7回エコプロダクツ大賞」のエコサービス部門において国土交通大臣賞を受賞しました。



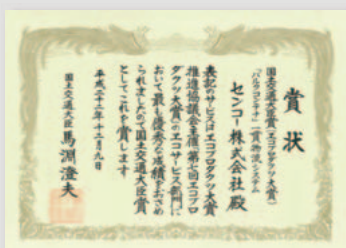
eco products awards
2010

第7回エコプロダクツ大賞
エコサービス部門国土交通大臣賞受賞

樹脂製品物流の 環境負荷低減と品質向上を実現

「エコプロダクツ大賞」は、わが国における環境負荷の低減に配慮した製品・サービス(エコプロダクツ)の振興と発展を図る目的で実施されている顕彰制度です。

センコーでは、主力サービスの一つであるケミカル物流において、従来紙袋やフレコンで取り扱われていた樹脂原料の粉体・粒体の輸送方法を見直し、輸送品質を向上する「バルクコンテナ」および特殊トレーラーシャーシを開発、これらを利用してメーカー様からお届け先様までの一貫物流を構築・実現しました。2006年から当サービスを開始し、輸送中のCO₂排出量を従前の約半分に削減し、廃棄される包装資材を大幅に削減しています。これらの取り組みが高く評価され、今回の受賞につながっています。



12月9日に東京ビッグサイトで行われた授与式で、「エコプロダクツ大賞」国土交通大臣賞を受賞する福田社長

CO₂排出量を半減する 「バルクコンテナ一貫物流システム」

ケミカル物流の長年の経験とノウハウを活かし構築した「バルクコンテナ一貫物流システム」は、独自開発の20フィートバルクコンテナ(ISO規格)を活用しているのが特徴です。樹脂原料を工場サイロから直接コンテナに充填し、お届け先様の工場サイロにも直接投入できるため、積込・積替えなどの作業過程での異物混入等のリスクが排除され、紙袋やコンテナ輸送用バッグ(フレコン)など使用後の包装物の廃棄量も削減できます。

また大型の専用コンテナの開発により樹脂原料の輸送回数を大幅削減し、さらに、鉄道や船舶による輸送に対応できることから、輸送品質の向上とともにモーダルシフトによるさらなる物流効率化を実現。バルクコンテナ化によって年間1,669tのCO₂を削減(2009年度)、10t車で輸送した場合と比較するとCO₂が半減となり、温暖化防止に寄与しています。

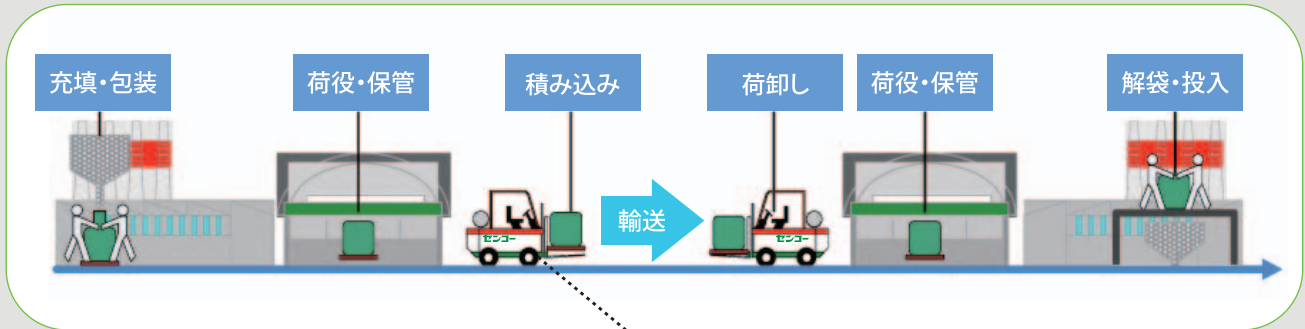


バルクコンテナー貫物流システム

Before

これまでの紙袋・フレコン輸送

- トラック長距離輸送主体で環境負荷大
- 使用後に包装資材等の廃棄物が発生
- 作業工数、保管・積載・輸送効率に課題
- 異物混入・破袋・破損のリスクを内包



CO₂排出量(年間)
50.9%
削減

従来の設備



紙袋(容量25kg)



フレコン(容量1t前後)

包装資材量(年間)
100万枚
使用後の廃棄量
削減

After

バルクコンテナ輸送

- 輸送ロット・車両大型化、モーダルシフトにより輸送効率向上
- 包装資材等の廃棄物の発生抑制
- 異物混入防止、作業工数の削減



バルクコンテナー貫物流システムの設備

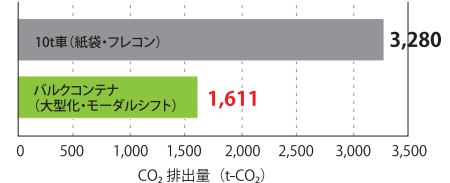


バルクコンテナトレーラー



バルクコンテナ

年間CO₂排出量の比較(2009年度)



環境方針

地球の未来を見つめ、温暖化防止活動を推し進めます。

センコーグループは「環境先進企業」として、地球環境負荷を低減する主体的・積極的な取り組みを推進しています。2010年度よりスタートさせた「Ecoイノベーション2012」では、目標数値を掲げて地球温暖化防止活動を強化。このような取り組みは、事業活動の中で環境に大きな負荷を与えている物流企業の責務であると考えています。

環境方針

環境理念

次世代へと継承していくべき地球が、豊かな自然環境に恵まれ続けるために、私たちはすべての事業活動を通じて、自主的かつ積極的に省エネルギー・省資源をはじめとする環境対策に配慮し、環境の保全及び継続的改善に取り組みます。

基本姿勢

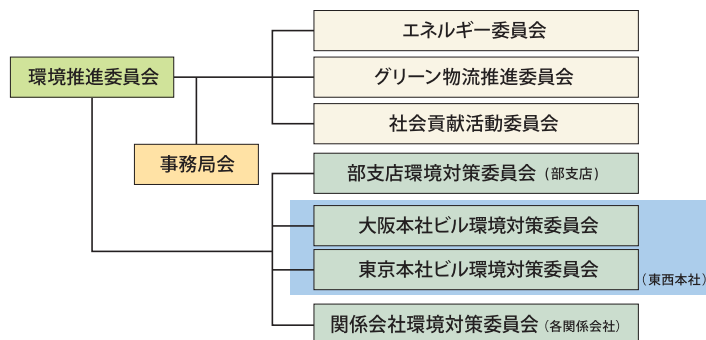
私たちセンコーグループは、地球環境問題を人類共通の重要課題と捉え、「良き企業市民」として主体的で継続的な環境保全のための基本方針を定め、環境との調和を図りつつ、流通情報企業として社会に貢献します。

基本方針

1. 環境に関連する法規制、条例、協定を順守し、環境汚染の予防および環境保全に努めます。
2. 事業活動によって生じる環境への影響を調査・把握し、環境に負荷を与える要因の低減を継続的に推進します。また、環境負荷を低減する新しい技術や設備などの導入を図ります。
3. あくなき創造性を発揮し、環境に貢献する高度なロジスティクスシステムを提案していきます。
4. この方針を達成するため、環境活動推進体制の整備、環境管理規程の整備、環境目標を設定し、推進します。
5. この方針を全従業員に周知するため、環境教育、啓発活動を実施するとともに、本方針を社外に公開し、情報を提供します。

環境推進体制

グループ一体となった環境活動を推進するための組織体制を整えています。その中核となるのが「環境推進委員会」で、環境改善課題を検討し、「エネルギー」「グリーン物流推進」「社会貢献活動」の各委員会ではそれに基づいた具体的施策を立案し、目標の達成に向けた取り組みを行っています。



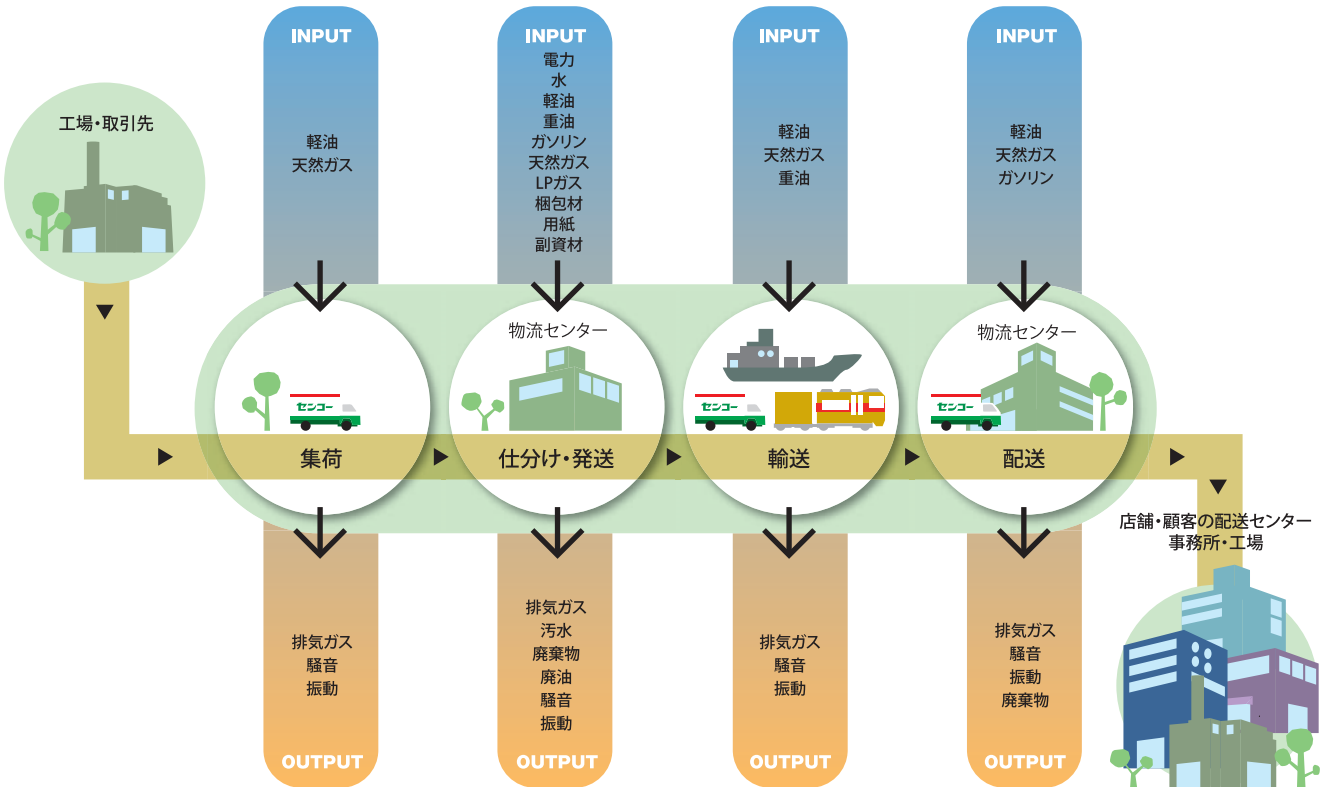
環境マネジメントシステムの推進

環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001の認証取得サイトをモデル事業所として、全社の独自の「センコー環境マネジメントシステム(SEMS)」を構築し、展開しています。

ISO14001規格の認証取得事業所においては、2004年版への改訂にも対応し、新規格に合わせてマニュアルや基準書類を改訂、活動も移行しました。改訂規格審査による認証は、2010年1月の更新審査によって現在も継続されています。

環境影響の全体像(2010年度)

資源やエネルギーの使用量[インプット]と、CO₂や廃棄物等の発生量[アウトプット]を数値化し、事業活動全体を通して発生する環境負荷を把握。今後の取り組みにつなげることで、環境影響の低減に努めています。

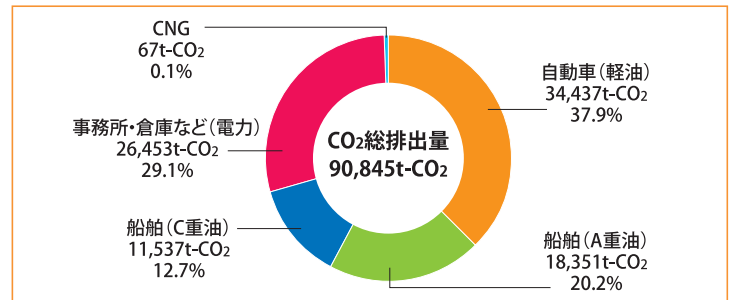


INPUT	
軽油	13,348 kL
重油	10,617 kL
電力	61,534,343 kWh

OUTPUT	
CO ₂ 排出量	90,845 t-CO ₂

CO₂排出係数は、2006年3月29日に改訂された地球温暖化対策の推進に関する法律施行令に基づく公表値による。

CO₂排出量要因別内訳



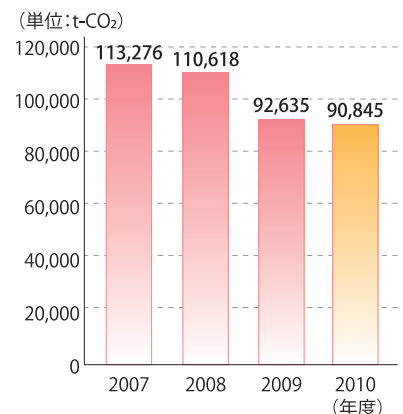
CO₂排出状況について

センコーは、事業活動で使用している自動車や船舶、事業所、倉庫の使用に伴う温室効果ガス(CO₂)排出量の把握と削減に努めています。2010年度のCO₂排出量は、90,845t-CO₂で、対前年度比マイナス1.9%で、1,790t-CO₂減少しました。

主要要因として、貨物自動車の燃料である軽油からのCO₂排出量は、貨物自動車の他社移管による台数の減少などにより対前年比マイナス7.3%、2,717t-CO₂減少しましたが、倉庫・物流センターの新設、新規業務増による稼働増の影響で、電力使用に伴うCO₂排出量対前年3%、770t-CO₂増加したことが影響しています。

船舶の燃料の重油使用によるCO₂排出量は、対前年比0.6%増、175t-CO₂増となっています。これは前年度1ヶ月運航停止していた船舶が年間を通じて運航したことによる燃料増加と、省燃料に寄与する新型船底塗料や推進効率向上する機器の取り付けなどによる航行中燃料低減効果によるものです。

[年間CO₂排出量の推移]



センコーの環境目標と成果

センコーでは2001年度より、環境活動の中期経営基本計画である『環境マスタープラン』を制定し、それに沿って年次の取り組み計画を立て、推進してきました。2010年度から3年間の計画を『センコーEcoイノベーション2012』と名付け、下記の取り組み項目、目標を設定して環境負荷削減に努めています。

第Ⅳ期「環境マスタープラン」(2010~2012年度)

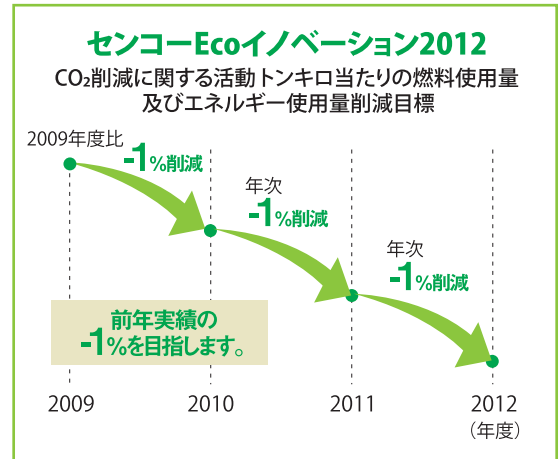
中期経営計画では、以下の環境目標を掲げて「センコーEcoイノベーション2012」活動を推進します。

基本的な考え方

資源生産性の向上、法規制遵守と管理システムの充実、積極的にマーケットに働きかけることで競争力の向上を目指していく。

環境目標(2009年度比)(2012年度までの中期目標)

1. CO₂削減に関する活動トンキロ当たりの燃料使用量削減目標:年次1%削減(車種別最高燃費への挑戦、省燃費タイヤの装着推進等)
2. エネルギー使用量:年次1%削減(売上当り※直営倉庫他、電力デマンド機器設置による省電力等)
3. グリーン物流提案件数:2012年度倍増
4. リサイクルの推進(紙の再生):年次平均3,500トン



2010年度の取り組み結果について

2010年度は夏期の猛暑の影響により、トラックの燃料使用が増加し、燃費は対前年度で2.6%悪化しましたが、単位当たりの使用量は基準年度の2009年度比6.3%の削減ができました。また省エネ法の対象となる単位当たりのエネルギー使用量は2009年度比4.1%減となりました。これは主要エネルギーである電力について電力デマンド管理や様々な省エネ対策、期中の進捗管理強化などの取り組みを行った効果によるものです。

今後は2011年3月11日に発生した東日本大震災の影響を分析し、国内電力供給の不足への対応を図り、センコーグループとしてEcoイノベーションの最終目標の達成を目指し取り組んでいきます。

		▼2010年度目標▼	▼2010年度取り組み進捗・結果▼
定量目標	トンキロ当たりの燃料使用量削減	2009年度比1%削減	2009年度比6.3%削減
	売上(直営倉庫・不動産B)当りのエネルギー使用量の削減	2009年度比1%削減	2009年度比4.1%削減
	廃棄物排出量の削減/リサイクルの推進	年次平均3,500トン	リサイクル量5,568トン
	グリーン物流の推進/グリーン物流提案	2009年度比30%増加	2009年度比42.9%増加
その他取組	エコカーの導入	・4トン以下低公害車導入 ・低公害バッテリーリフト導入	・社内の設備承認部署にて導入可否をチェックし導入を推進 ・バッテリーフォークリフトを低公害リフトとする定義見直しを図る
	環境マネジメントシステムの機能化	・センコー環境マネジメントシステムの全社展開	・環境基本規程を策定し、支店担当者への概要説明を実施。今後、現場に定着しやすい仕組みに見直しを図っていく
	環境情報管理体制の構築	・情報システム検討	・求められる情報システムの仕組みについて検討
	社会貢献活動の推進	・事業所周辺美化 ・こども交通安全教室	・延17,726名の参加 ・10か所で開催し親子540名の参加

※Ⅲ期環境マスタープランではCO₂の排出量目標を絶対量としていたが、省エネルギー法で要求されるエネルギーの目標が単位当たりとされていることに対応して、2008年度より「売上当り排出量」で年次目標管理していくこととした。

太陽光発電システムの活用状況について

水島物流センターに続き、2010年度は泉北第2PDセンターに太陽光発電システムを導入しました。

2008年度に導入した水島物流センターでは、2010年度には年間発電量が約126,072.3kWhとなり、年間70.0t-CO₂のCO₂削減に貢献しました。

※CO₂削減効果は『地球温暖化対策の推進に関する法律施行令』(2008年度時点)に基づき、「0.555kg-CO₂/kWh×発電力量(kWh)」で算出。



水島物流センター太陽光パネル



自然エネルギーを積極的に活用する
泉北第2PDセンターの太陽光パネル

「センコーEcoイノベーション2012」の主なアクションプランをご紹介します

01 車両・船舶への取り組み

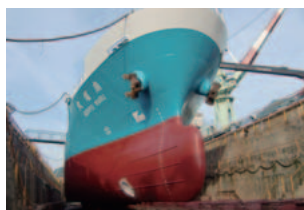
●車両

エコドライブの推進をはじめ、燃費向上に向けた様々な機器導入を実施しています。

●船舶

燃費向上を目的に、船底塗料の変更やスクリュウへの対策を行っています。

▶▶▶詳しくはP19をご覧ください



02 物流施設・事務所での取り組み

省エネ効果の高い設備への転換・導入を進めるとともに、事業所26ヶ所に活動効果を「見える化」できる電力デマンドを導入。着実な取り組みで環境負荷を低減します。

省エネ型照明 省エネ空調 屋上緑化

太陽光発電システム 電力デマンド

▶▶▶詳しくはP17・21をご覧ください



2009年度比で、以下の削減目標を目指します

燃料
使用量

トンキロ当たり
年次1%削減

エネルギー
使用量

売上当たり
年次1%削減

前年実績の
-1%を目指します。



モーダルシフト

拠点集約

大型・共同化

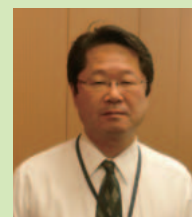
グリーンパートナーシップ

輸送の効率的を図ることで環境負荷を低減する「グリーン物流」を展開。また、荷主様との協働による「グリーンパートナーシップ事業」を強化しています。

▶▶▶詳しくはP11~14・20をご覧ください

03 物流サービスでの取り組み

CSR VOICE



安全環境管理部
環境推進グループ長
伊藤 隆巳

主な取り組み項目で環境目標を達成。

2010年度の環境取り組み(エコイノベーション2012)結果は、①トンキロ当たりの燃料使用量削減:目標2009年度比-1%に対し-6.3%、②売上当たりの電力使用量削減:目標2009年度比-1%に対し-4.1%、③廃棄物排出量削減:対前年単位当たり-13.2%(目標リサイクルの推進3,500トン以上に対し、5,568トン)と、目標を大幅に達成できました。これは、環境推進グループで策定した「環境取り組み31項目」などをもとに各事業所で策定した具体的「実施計画」に対する進捗確認を四半期ごとに行い、数値実績未達成事業所については、実施計画項目を見直し(設備計画含む)、さらに活動を展開するマネジメントシステム(PDCA)が機能したことによるものと考えています。

2011年度については、未曾有の大震災の発生により、活動も大きな影響を受けますが、従業員一丸となって知恵を絞り、目標達成に向け取り組んでいきます。

地球温暖化防止への取り組み

車両の低公害化と燃費向上

■ エコドライブ(省エネ運転方法)の推進

デジタル式運行記録計をグループ全体で約2,000台の車両に装着し、燃料消費やCO₂排出量を抑制するエコドライブを推進。エンジン回転数などの上限値を設定し超過時に警告音を発するとともに、運転状況を点数評価することで、ドライバーへ省エネ・安全運転を促しています。



デジタルタコグラフ・ハンディターミナル

■ 低公害車への切り替え

低公害車の在籍数は2010年12月時点で170台、同じく低公害フォークリフト1,505台。低公害車両への代替を推進するために、今後は4トン車以下の車両購入・代替については本社の社内設備管理部門の承認を得ることをルール化し導入を促進していく考えです。



低公害フォークリフト

■ 蓄冷式クーラーの導入

アイドリングストップによる燃費向上を図るため、エンジン停止状態で使用可能な「蓄冷式クーラー」の導入を推奨しています。長距離仮眠時や車内休憩時など、真夏でも快適に車内待機できます。

■ 省燃費タイヤの導入

省燃費効果が期待できる省燃費タイヤを社内で推奨し、導入を図っています。2010年度の購入比率(本数ベース)は9.2%。高速道路の走行の比率が多い車両は特に効果が現れやすく、今後さらに装着比率を高めていく考えです。

船舶の燃費向上取り組み

■ 水抵抗を軽減する、新型船底塗料を採用

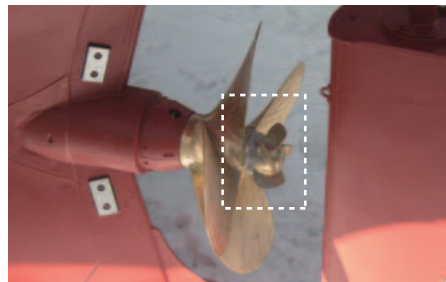
センコーは自社船においても、新型船底塗料(吸水性高分子含有船底塗料)の導入を進めるなど、燃費向上を図っています。新型船底塗料を使用した「扇燿丸」では、燃費率で2.8%の削減効果を確認できました。2010年10月に導入した「扇龍丸」、「扇泰丸」、「扇翔丸」に対しても燃費削減効果を確認中です。



新型船底塗料を使用した「扇燿丸」

■ 省エネプロペラボスキャップフィン(PBCF)で、推進効率を向上

回転数を適切に調整し、燃費を向上させる活動を継続するとともに、「省エネプロペラボスキャップフィン(PBCF)」を自社船4隻に導入。プロペラ後部にあるボスキャップにプロペラと同じ枚数のフィンを取り付けることにより、ボスキャップの先端から発生する渦を拡散・減少し、造渦による誘起抵抗を削減してプロペラ効率を改善させています。



「扇龍丸」のプロペラボスキャップフィン

Topics

「電気貨物自動車」実用化に向け試験運用を開始しました!

近畿トラック協会が主催する電気貨物自動車(EVトラック)実用化に向けての産官学の連携による実証実験「MIRAI便 E-truckプロジェクト」に、グループ会社の大阪センコー運輸整備(株)が参加。2011年1月よりEVトラックの試験運用を開始しました。

「E-truck」は、最大貨物積載量2トンの貨物輸送車両を改造、小型電動車用鉛蓄電池を利用し1回の充電あたり約80kmの走行が可能で、貨物輸送分野では国内初の電気自動車です。センコーでは同プロジェクトへの参加を通じて、黒煙・CO₂の排出ゼロとなるEVトラックの普及に努め、環境保全に貢献していきたいと考えています。



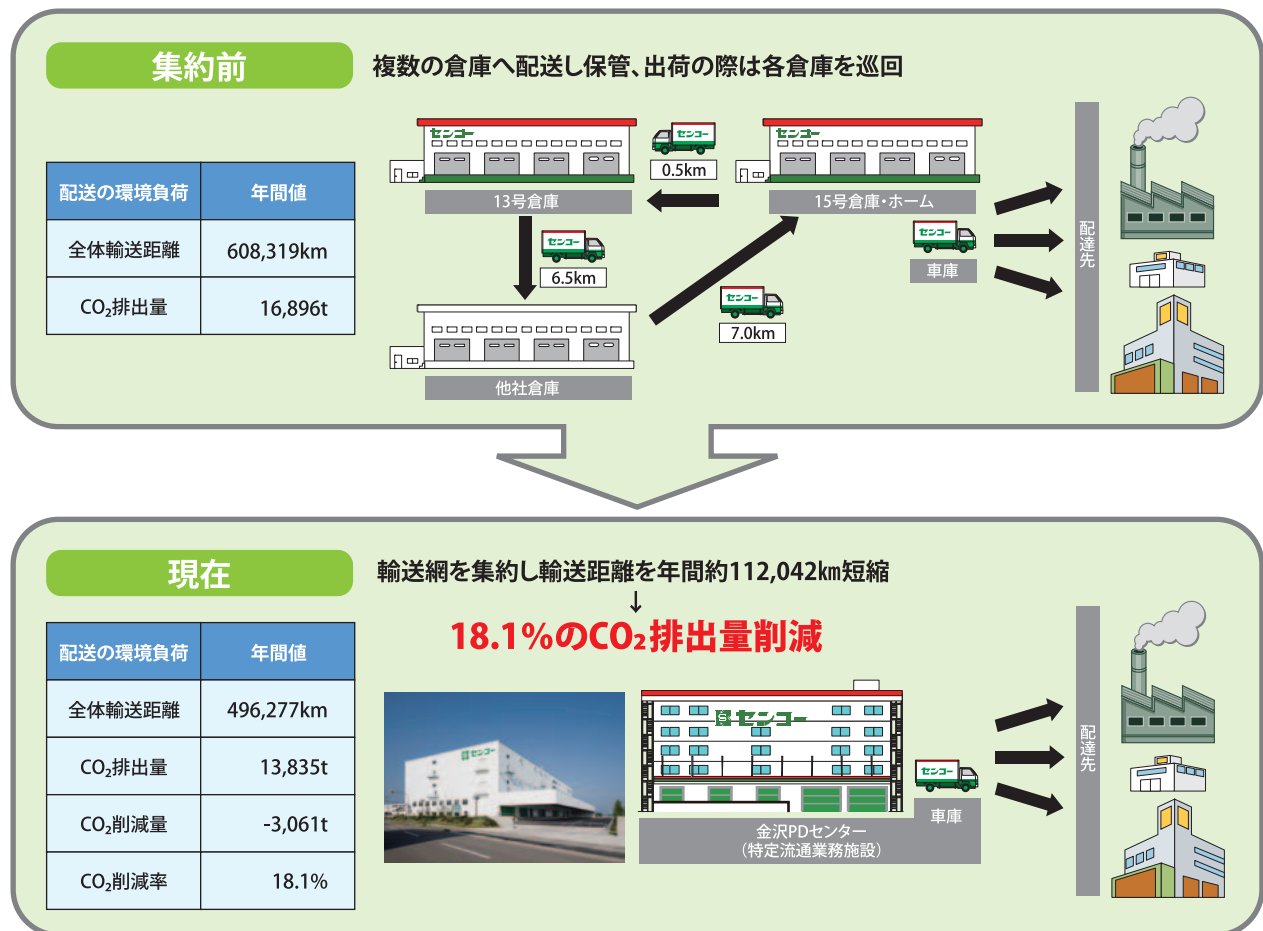
舞洲PDセンターで行われた出発式では、近畿トラック協会を代表して福田社長が挨拶

物流サービス・効率化への取り組み

「拠点集約」による物流効率化を推進

物流効率化に大きな効果を発揮するのが、拠点の集約です。センコーでは2010年度は国内数ヶ所に物流拠点となる新倉庫を設立。その一つが、2010年7月に稼働した「金沢PDセンター」です。3ヶ所の倉庫棟を集約することにより全体輸送距離を大幅に短縮し業務を効率化。CO₂等の温室効果ガス排出量削減に寄与する事業として、北陸信越運輸局より「物流総合効率化法^{*}」による認定を受けています。

^{*}物流を総合的かつ効率的に実施することにより、物流コスト削減や環境負荷低減等を図る事業に対して、その計画の認定、関連支援措置等を定めた法律



物流施設・事務所で取り組み



電力デマンドの運用状況

センコーでは、エネルギー使用量の約1/3を占めている電力使用量の削減に取り組んでいます。事業所では31項目の削減手法を受託業務にあわせて採用し省エネ活動を推進しています。

なかでも電力使用量の多い事業所には、電力の使用状況を30分ごとに計測し表示する「電力デマンド機器」を導入し、電力使用の「見える化」を行い、電力消費の要因に応じた効果的な使用量削減対応を進めています。

2010年度に運用を開始した26事業所では、17事業所で電力使用量が対前年で減少しました。一方、業務量の増加、新規業務の開始などにより電力使用量が増加した事業所もありましたが、2010年度にデマンド機器を導入した事業所全体では電力使用量を対前年2.5%削減することができました。

今後はより効率的な電力削減を行なえるよう各事業所の取り組みを共有し、運用改善に努めます。

各拠点の2010年度実績

拠点名	支店名	電力使用削減量 (kWh) ※	削減率
①札幌PDセンター	札幌主管支店	-6,737	-1.8%
②茨城PDセンター	茨城支店	-34,468	-6.0%
③浦和PDセンター	埼玉主管支店	+72,319	+2.4%
④杉戸PDセンター	埼玉主管支店	-15,241	-1.2%
⑤南埼玉流通センター	埼玉北支店	-63,024	-7.9%
⑥戸田第1 PDセンター	埼玉南支店	-330,975	-36.0%
⑦第1 納品代行センター	柏支店	-139,488	-7.8%
⑧第2 納品代行センター	柏支店	-92,496	-4.5%
⑨柏PDセンター	柏支店	-62,097	-9.4%
⑩市川FLC	東京都支店	+102,610	+4.4%
⑪東扇島PDセンター	神奈川支店	-93,221	-13.0%
⑫東扇島物流センター	神奈川支店	+66,951	+12.7%
⑬厚木物流センター	神奈川支店	-57,047	-6.8%
⑭厚木ロジスティクスセンター	静岡主管支店	+179,880	+11.8%
⑮浜松PDセンター	静岡西支店	-51,189	-5.2%
⑯四日市PDセンター	三重支店	+24,642	+8.1%
⑰守山PDセンター	京滋主管支店	-94,465	-16.2%
⑱寝屋川IPDセンター	大阪主管支店	-78,256	-6.4%
⑲東大阪第1 PDセンター	大阪主管支店	-180,010	-6.6%
⑳奈良PDセンター	大阪主管支店	-83,518	-11.7%
㉑西神戸PDセンター	阪神支店	+34,873	+3.0%
㉒泉北PDセンター	南大阪支店	+96,860	+9.3%
㉓泉北第2 PDセンター	南大阪支店	+99,691	+11.1%
㉔熊本PDセンター	九州主管支店	+14,550	+2.8%
㉕福岡PDセンター	九州主管支店	-34,913	-3.8%
㉖宮崎物流センター	南九州支店	-825	-0.2%
合計		-725,594	-2.5%



※ 2009年度使用量に対する2010年度使用量の削減量

2009年度CSR報告書では30事業所で導入と記載していますが受託業務変更などにより最終的に26事業所での電力デマンド運用となっています

事業所周辺の緑化推進

センコーグループでは、身近なところから取り組める地球温暖化防止活動として、事業所の緑化を進めています。2010年度は、小牧PDセンターでの屋上緑化を実施しました。



事務所棟屋上スペースを多年草の「メキシコ万年草」で緑化

省エネ型照明への転換

省エネ設備の中でも高い効果が見込めるのが照明設備です。センコーでは事業所や倉庫で、光源を従来型からLED蛍光灯などに取替える、照度計でチェックし適正な照度にする、反射板を採用するなどの取り組みを行っています。2010年度は、金沢PDセンターとりんこうPDセンターにて照明設備の転換を実施しました。



金沢PDセンター



りんこうPDセンター

環境法令対応・環境認証取得の状況

グリーン経営認証の推進

センコーでは、国土交通省所管の「交通エコロジー・モビリティ財団」が推進する「グリーン経営認証」の取得を進めています。



阪神車両センターグリーン経営審査

ISO14001 認証取得状況

環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001を認証取得に取り組み、2011年4月現在では10事業所で継続認証をしています。



定期審査風景



定期審査での現場視察風景

改正省エネ法への対応

省エネ法(エネルギーの使用の合理化に関する法律)の2008年度の改正により、年間のエネルギー使用量が原油換算値で1,500キロリットル以上の事業者(特定事業者)は、中長期の省エネ計画の策定と年次のエネルギー使用量の定期報告が求められることとなり、センコーもこの特定事業者に指定されました。また、企業全体の省エネを指揮統括する「エネルギー管理統括者」を選任し、省エネを確実に推進することも規定されており、センコーでも管理統括者を選任しました。

これら法令の要請に対し、センコーでは、エネルギー使用量の削減について、国から提示された具体的な取り組み項目(判断基準)に基づいて継続的な取り組みを進めています。

CSR VOICE

**エネルギー管理統括者として
全グループを挙げて、
目標達成に向けた省エネ活動を推進します。**

エネルギー管理統括者／
取締役 執行役員 安全環境担当 **森本康司**

センコーでは、過去から省エネ対策を積極的に取り組んできましたが、2008年の法律の改正により非常に高い目標達成を求められています。そのため、省エネ対策を推進する環境推進委員会で色々な方法を検討し、より効果的な対策を全社をあげて確実に実行していきます。



【特定事業者が行わなければならない事項】

STEP 1 事業者全体でのエネルギー使用量の把握



STEP 2 エネルギー使用状況届出書の提出



STEP 3 特定事業者の指定



STEP 4 エネルギー管理統括者・
エネルギー管理企画推進者の選任



STEP 5 事業者単位でのエネルギー管理の実施



STEP 6 中長期計画書・定期報告書の提出

特集 03

センコーの安全品質向上活動

「現場力」をより強化するために—

技能コンテスト 全国大会を開催しています。

技能に加えて、お客様満足を評価 「事務部門」も新設した第4回大会

センコーでは、法令以上の厳しい基準を定めた独自の行動・技術規範「センコー流」をグループ全体に浸透させるために、2006年より「センコーグループ技能コンテスト全国大会」を開催しています。4回目となる今大会は、現場力の一層の強化を目指して、競技内容を一段階ステップアップ。技能面だけでなく、CS（顧客満足）についての評価項目を追加し、新たに事務（電話対応）部門を設置しました。



お客様とのコミュニケーション能力も重要な評価ポイントになります。

優勝

ドライバー部門
11t車

南九州センコー(株)
神崎 敏之



▶受賞のコメント

栄えある第1回目の優勝者に選んでいただき本当に光栄です。34名の選手と切磋琢磨することで、勉強になりました。

優勝

事務（電話対応）
部門

人事部
吉田 有里



▶受賞のコメント

まさか優勝できるとは思っていませんでしたので、本当に嬉しいです。練習の成果が発揮でき、自信につながりました。今後さらに技術に磨きをかけていきます！



全国から106名が集い、 「センコー流」の技能を披露

第4回大会は2010年10月2・3日、当社の交通安全研修施設「クレフィール湖東」にて実施。ドライバー部門、オペレーター（フォークリフト）部門では、従来以上に技能レベルの難易度を高め、また「お客様への挨拶」や「態度」など普段の業務に即した評価ポイントを加えました。緊張で笑顔が固まるという場面もみられましたが、同僚や家族の声援のなか日頃培った技術や知識を競い合いました。

◇ドライバー(11t・4t)部門 参加 37名

知識テスト、点検競技、一般走行の他、課題走行ではスラローム走行、縦列駐車、S字後退などの課題に挑戦しました。

◇オペレーター(カウンタ・リーチ)部門 参加 35名

知識テスト、点検競技、リフト荷役、荷役技能を競技。荷役では、生産性や製品特性も考えた操作であるかも審査対象に。

◇事務(電話対応)部門 参加 34名

営業案件への問い合わせ対応など、あらかじめ設定した課題に対して制限時間内での応答力を競いました。

もっと安全に、笑顔の接客を! トレーナーと共にごんばります

競技課題を設定し、当日の判定にあたるのは日頃、現場のレベルアップに取り組む全国の「安全運転トレーナー」「リフト技能トレーナー」。参加者は大会を通じ自分の技能水準を確認し、課題を各職場に持ち帰り、トレーナーと共にさらなる技術向上に取り組めます。技術を競う場であるだけでなく、センコーが目指す「現場力」強化の原動力となっているのがトレーナー制度とこの技能コンテストです。



▶受賞のコメント

職場全員でコツコツと業務に取り組んだ結果が、今回の優勝だと思います。この経験を生かして、指導者として活躍したいです。



▶受賞のコメント

全身から喜びが満ちあふれています。遠方からかけつけていただいた上司や職場の皆さんの存在が励みになりました。



▶受賞のコメント

職場では休日返上で点検や走行を指導してもらいました。本番ではたくさんミスをしたと感じていましたが、このような結果で嬉しいです!



優勝

オペレーター部門
カウンタ
三重支店
川出 佳史



優勝

オペレーター部門
リーチ
東京主管支店
横田 幸隆



優勝

ドライバー部門
4t車
関東住宅支店
森 治樹



真剣な表情で競技に挑むドライバー



安全かつ効率の良い積み付けに挑戦!



「お客様の立場に立つ」ことを常に心がけて対応



「大会は各自のモチベーションを高める機会にもなる」と語るリフト技能トレーナー・加部貴士社員

課題を現場にフィードバックすることで 安全品質のさらなる向上を図る

CSR VOICE



実行副委員長
取締役 森本 康司

「センコーグループ技能コンテスト」は、全国ドライバーコンテスト※の内容を基本に、「センコー流」の厳しい行動規範をプラスした高いレベルの競技内容となっています。当社グループの品質マネジメントの一貫として開始し、当初の目標をほぼ達成できたことから第4回大会はさらに技術難度を上げ、お客様へのコミュニケーション力も意識した競技内容としました。センコーの“課題”を見つける場ともなるのがこの技能コンテストです。各職場で改善に取り組み、その技術を次の人に教えるとともに、グループ全体の力をより高いレベルに引き上げることを目的としているのが外部大会との大きな違いです。センコーでは基礎技術の向上に加えて、今後は危険物輸送などの特殊分野にも注力。グループの技術水準とお客様満足度を向上させるプロフェッショナル育成に取り組んでまいります。 ※(社)全日本トラック協会主催

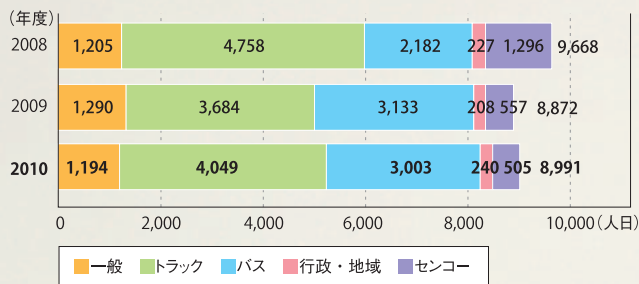
＜技能コンテスト開催の趣旨＞

- ① センコー流(独自技術)を活かし、安全・品質・生産性向上を行う「物流のプロ」のあるべき姿を示す大会とする。
- ② CS(顧客満足)の目指す最高の「挨拶・笑顔・マナー」を浸透させる大会とする。
- ③ センコーマン(ウーマン)の成長志向や誇りを育む大会とする。

「クレフィール湖東」は多様な研修を通じ、 社会の交通安全向上に貢献しています

国内屈指の規模を誇る公開型交通安全研修施設が「クレフィール湖東」。センコーは安全重視・環境配慮企業として、安全運転・エコドライブのためのノウハウ・研修プログラムを多くの企業や団体・一般ドライバーに提供しています。これまでに延べ8万人を超える研修生を受け入れ、研修後は事故件数が減少するなど嬉しい報告をいただいています。

■クレフィール交通研修 企業・団体別利用者実績



◇タイ日系物流企業の交通安全研修も実施

2010年8月には、タイの物流会社TTK LOGISTICS CO.,LTD.※の「交通インストラクター育成研修」を行いました。2011年に設立されるTTK様のトレーニングセンター事業に、センコーはアドバイザーとして支援体制をとっており、研修には指導者候補となる精鋭ドライバー13名が参加。センコー流の服装・車両点検、安全運転、エコドライブなどの訓練を受けました。トレーニングセンターとの連携によりタイにも通用するセンコー流を構築し、タイの交通安全向上に貢献していきたいと考えています。



※ 豊田通商株式会社様とキムラユニティ株式会社様の共同出資による現地法人

研修風景。「安全・品質ともに
タイNo.1」を目指します

◇固有技術を磨く、多彩な業態別技能訓練

主力事業の一つ「住宅物流」の技術向上のための専用研修施設もクレフィール湖東内に設置。また、危険物・毒劇物輸送のプロを養成する「ローリー輸送テクニカルプロドライバー認定訓練」や「潤滑油シャトルリーダー養成訓練」など多彩な研修を行い、特定業務分野での安全品質の飛躍的向上を図っています。



毒劇物輸送訓練風景

安全活動方針

全てに優先する「安全の維持」に向けた取り組みを継続します。

センコーグループは、「人間尊重」と「全てに優先する安全」を安全理念に掲げ、「重大事故ゼロ」を目標とした安全確保への取り組みを進めています。

グループ全体の安全性をより高めるため、2006年10月に「安全方針」「安全向上のための6つの重点施策」を見直し、新たに策定し、安全活動を推進する「安全管理責任体制」を構築しました。また貨物自動車運送事業法改正に合わせ、安全に関わる情報をホームページで公開しています。

<http://www.senko.co.jp/environment/transport/>

安全理念

「人間尊重」と「全てに優先する安全」の精神のもと、『完全0災職場を確保』を実現する。

1. あらゆる事故・災害は防止することができ、また防止しなければならない。
2. 管理者は従業員の安全に対する責任を負う。
3. 全従業員が「あらゆる事故をなくするのだ」ということを信条にしなければならない。
4. 安全は高品質と高生産性を確保する。

安全方針

基本姿勢

- 私たちセンコーグループは、物流事業の社会的使命を深く認識し、事業活動における安全確保が事業経営の根幹であることを、当社のために働くすべての人が正しく理解し、安全の向上に寄与する取り組みを推進する。
- 経営トップは、現場からトップまでが一体となって事業活動における安全の確保と安全性の向上に努めるよう積極的に主導する。

行動指針

1. 安全マネジメントシステムと安全衛生活動の継続的な改善を推進し、事故・災害防止と安全リスクの低減に努める。
2. 安全衛生に適用される法規、条例、協定および同意するその他の要求事項を遵守する。
3. 安全・衛生活動に関する情報について積極的に公表する。
4. この安全方針を達成するため、目的、目標を設定し、当社のために働くすべての人に周知し、理解と安全意識の向上をはかる。また、社外に安全方針を公開し、理解と協力を得る。

安全向上のための6つの重点施策

1. 事業における安全の確保が最も重要であるという認識を徹底し、関係法令及び安全管理規程に定められた事項を遵守する。
2. 安全に関する費用支出及び投資を積極的かつ効果的に行うよう努める。
3. 安全に関する内部監査を行い、必要な是正措置又は予防措置を講じる。
4. 安全に関する情報の連絡体制を確立し、社内において必要な情報を伝達、共有する。
5. 安全に関する教育及び研修に関する具体的な計画を作成し、これを確実に実施する。
6. センコーグループ全体の安全性が向上するように、一丸となって安全確保に努める。

安全目標

センコーグループでは、事業における安全の確保が最も重要であるという認識のもと、あらゆる事故・災害を防止する安全活動を徹底させています。2010年度にスタートした中期経営計画では、交通事故・労災事故ともに2009年度比30%削減を目標に、グループ一丸となって安全マネジメントシステムのPDCAを展開し、リスクの低減に努めています。2010年度は、国交省に報告が必要な重大な交通事故は1件も発生しませんでした。

2012年安全中期経営計画目標

- 重大事故 ゼロ
- 重大災害 ゼロ
- 車両事故、労働災害とも
2009年度比30%削減

[達成状況 / 目標]

(件数)

	2009年度	2010年度		2011年度	2012年度
	実績	目標	実績	目標	目標
重大事故	1	0	0	0	0
労災事故	18	16	18	14	12
交通事故	11	11	17	10	9

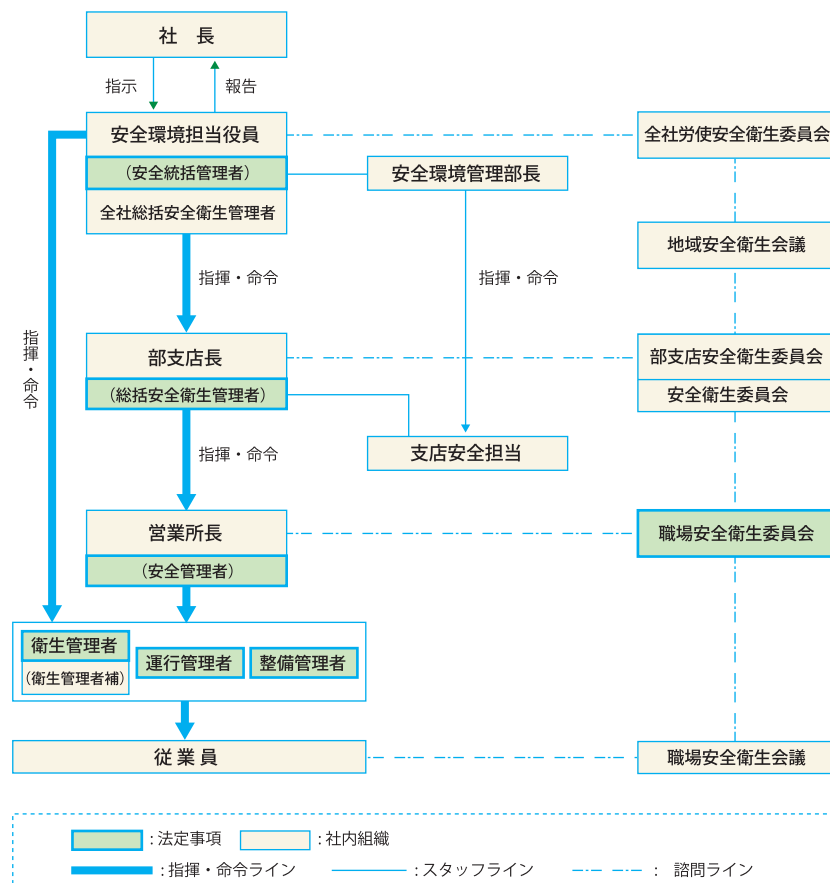
30%削減

※重大事故とは、自動車事故報告規則第2条に該当する事故として設定しております。

「安全マネジメントシステム」の運用

センコーでは、リスクマネジメントの考え方を取り入れた、独自の「センコー安全マネジメントシステム」により、安全水準の向上を図っています。このシステムでは、現場からリスクや課題を抽出し、それを組織のトップによるシステムの再構築へ、さらには日常の安全活動の改善へとつなげる仕組みを実現しています。トップダウンとボトムアップを融合させたマネジメントシステムによって、より現実に即した安全活動と、継続的な安全水準の向上を可能にしています。

[安全マネジメント組織体制]



安全管理への取り組み

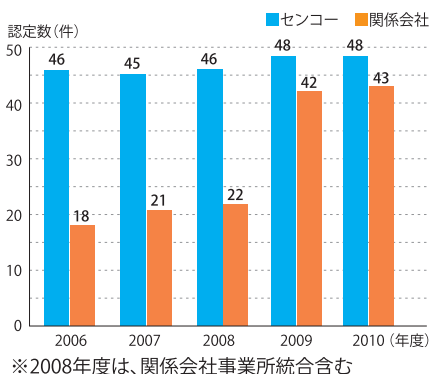
安全マネジメントシステムに沿った安全活動

センコーでは、安全活動の推進の手段として「安全マネジメントシステム」を策定し、これに沿った様々な活動を行い、事故・労働災害の予防や再発防止に取り組んでいます。

■ 安全性優良事業所認定の取得

安全活動の一環として2003年度から取り組んでいるのが、全事業所における「安全性優良事業所認定」の取得です。安全性優良事業所とは、(社)全日本トラック協会(国土交通省指定)が事業者の「安全性に対する法令の遵守状況」、「事故や違反の状況」、「安全性に関する取り組みの積極性」を、評価基準に基づいて点数化し認定するもので、2011年3月現在、センコーの48事業所及び関係会社43事業所が認定を受けています。

[安全性優良事業所認定数推移]



■ 運行管理者研修等の実施

運行管理規程や行政処分、ドライバーへの指導方法などについて、管理者に対する再確認を目的に「運行管理者研修」を行っています。2010年度研修には計155名が参加。また全店の安全環境担当者を対象とした「安全担当者連絡会議」を年数回開催し、安全レベルの向上を図っています。



「NASVAインターネット適性診断システム」の導入

2010年4月より、センコーでは独立行政法人自動車事故対策機構(NASVA)が開発した、インターネット利用による適性診断システムを都道府県毎に導入しています。パソコンにハンドルやペダルを装着し、実際にハンドルを握り模擬運転診断が受けられるのがこのシステム。ドライバーの長所、短所を見出し、それぞれの癖に応じたアドバイスを受け改善・指導につなげることで、事故防止と安全性のさらなる向上を目指しています。



NASVAネットの特徴

- ①CGシミュレーションにより、運転特性を把握
ハンドル、アクセル、ブレーキ操作の癖や判断力から、技術面だけでなく、「安全エコ運転度」「先急ぎ運転度」「予防安全運転度」「思いやり運転度」などの性格面も含めた分析ができます。
- ②視覚機能などフィジカル面の診断も可能
点滅した光を目で追って回答するなど、認知・処理機能や視覚機能などの特性を把握できる診断項目も含まれています。
- ③365日24時間受診でき、診断表も即時発行
各項目は分かりやすく点数化され、安全運転に役立つアドバイスや運行管理者向け「指導ポイント」も記載。診断表はプリントアウトされ、その場で確認できます。

CSR VOICE

ドライバーの安全意識の向上に有効です。

安全環境管理部 課長 水川 広道

センコーでは2年に一度の運転適性検査を行っていますが、365日いつでも受診できるNASVAネットの導入で、より効率的に各自の注意点などを確認できるようになりました。事故防止には、ドライバーひとり一人の安全意識の向上がなにより大切です。「自分の弱点はなにか」を常に意識することは安全性向上に効果があると期待しています。各事業所では、それぞれの結果を受けて職長が指導しています。今後はこのシステムを全車両事業所へ普及させていく予定です。



充実の安全教育・技能向上への取り組み

「強い現場」・「卓越した現場」をつくる人材教育体制

センコーでは、自ら革新していく「強い現場」、そこから新しい価値を創造できる「卓越した現場」をつくることのできる人材の育成に力を注いでいます。

全ての研修に、改善・革新をテーマとしたカリキュラムを導入し、各地域の現場に革新をもたらすリーダーの養成を目指します。また教育対象を協会社や派遣・パート社員にまで広げ、センコー流を徹底させます。

また、海外物流拠点においても、勤務する社員に対してセンコー流のポイントを教育するとともに、現地法人の管理者を対象にした安全管理教育を実施しています。

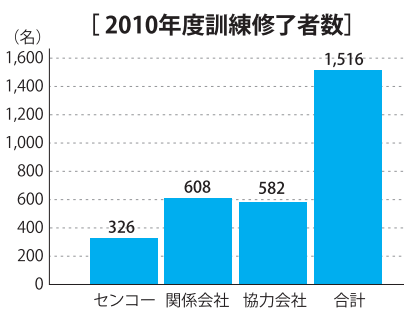
1. 地区訓練を充実するためのトレーナー体制

卓越した現場力を築き上げるため、センコーの現場の行動規範を構築し、本社教育部門と一体となって、物流基礎教育をセンコーファミリー全体に普及させる橋渡し役となり現場第一線で働く従業員を直接指導する「安全運転トレーナー」と「リフト技能トレーナー」を育成しています。



2. 地区訓練

センコーグループで働く社員を対象にした訓練を各地区で実施。より多くの人に安全品質教育を受ける機会を提供しています。この地区訓練で中心となるのが、「安全運転トレーナー」と「リフト技能トレーナー」です。



3. グループ会社(新規参入)安全研修

新たにセンコーグループに参入した運輸系の会社に対し、安全研修、安全訓練を実施しています。また、この研修(訓練)は参入時期に合わせて1年目研修(訓練)から3年目研修(訓練)に区別して実施しています。



4. 海外物流拠点教育

多様化するお客様のニーズに対応するために、海外に点在する物流拠点のドライバー、リフトマン、管理者に対する教育を定期的に行っています。



安全活動の評価・達成状況

「外部団体」からの評価・表彰

センコーの組織としての安全活動、さらに従業員個々の高い技能や安全意識は、多くの外部団体からの評価・信頼され、以下のような表彰を受けています。

1. 支店・関係会社表彰

■京滋東支店

510日間の無災害記録に対し、(社)滋賀県労働基準協会の東近江支部より「無災害記録樹立事業場表彰」

■京滋主管支店 守山PDセンター

危険物管理と災害防止対策を徹底し、(社)滋賀県防火保安協会連合会から「会長表彰」

■仙台主管支店 仙台ハウス営業所

徹底した交通安全対策に、宮城県警察本部から「優秀安全事業所」の最高賞「プラチナ賞」を受賞

■延岡支店

延岡警察署の交通安全イベントに協力し、地域安全への貢献に「感謝状」

■センコーエーラインアマノ(株) 津山営業所

5年間の無事故・無災害を達成し、陸上貨物運送事業労働災害防止協会から「無災害記録表彰状」

2. 個人表彰

■岡山主管支店 倉庫営業所／猪野 一

17年にわたり職場でリーダーシップを発揮し、「安全優良職長」として厚生労働省より表彰

■京滋東支店 湖東営業所／西澤 善洋

(社)滋賀県トラック協会主催の「第3回エコ・セーフティドライブコンテスト」4トン部門で優勝

■千葉支店 陸運センター／田口 浩之

■三重支店 鈴鹿場内センター／谷口 徹也

長年にわたる安全運転で、陸上貨物運送事業労働災害防止協会から「フォークリフト等優良運転者」として表彰

■奈良センコー物流(株) 奈良営業所／林田 誠・山本 剛

長年にわたる安全運転で、奈良県高速道路交通安全協議会から「優良運転者」として表彰

■南九州センコー(株) 水俣車両センター／田端 尊浩

全国ゼロ災運動推進協議会主催の「全国衛生安全大会」で危険予知訓練イラストが入選

「社内」での無事故・無災害表彰

安全活動を徹底する優れた事業所及び個人を表彰。従業員のモチベーションアップにもつながっています。

1. 事業所

■広島支店 ハウス営業所

無事故連続記録賞第1種 500万走行キロ無事故達成

■京滋東支店 岐阜営業所・センコーエーラインアマノ(株)

無災害連続記録賞第2種 100万時間無災害達成

■名古屋主管支店 富山営業所／岡山主管支店 倉庫営業所

北九州支店 小倉営業所／南大阪支店 南港PDセンター

無災害連続記録賞第1種 50万時間無災害達成

2. 個人表彰

2010年7月1日(創立記念日)に、以下の3名が30年無事故・無災害で社長表彰を受けました。

■30年間無事故表彰



茨城支店 安田益男社員

■30年間無災害表彰



茨城支店 野村行弘社員



延岡支店 渡辺精希社員

扇凧丸船長が社長表彰を受賞

CSR VOICE

扇凧丸 菅本康彦 船長

『安全表彰、誠に有り難うございました。アンモニア船一途に扇島丸、さんらいず、扇豊丸、扇耀丸、扇龍丸、扇凧丸と乗り継いでこられたのも、ひとえに皆様の応援があつての事です。これからも安全第一をモットーに頑張る所存です。ありがとうございました。』



2010年4月16日
31年にわたる無事故・無違反の達成と、人材育成への尽力で社長表彰受賞

快適な職場環境づくり

健康で、働きがいのある、明るい職場づくりを進めます。

従業員と家族の健康は、会社の元気につながります。

センコーでは、コミュニケーションを大切に、健康で明るい職場づくりを目指しています。

また、「健康増進活動」を推進し、一人ひとりの健康意識や、職場の活力の向上につなげています。

さあ身体を動かそう！ 2011年度より 「健やか活動チャレンジ85」をスタート

食生活の欧米化や運動不足、ストレスなどにより、近年我が国では「生活習慣病」対策が重要な課題となっています。これを受け、センコーでは独自の健康増進活動に取り組んでいます。2008年度からの「センコー健やか活動」においては健康を意識する活動を実施、一人ひとりが健康目標に取り組んできました。

2011年度からは、さらに従業員皆の健康度を高め、体を動かす習慣を身につけることを目的に、「健やか活動チャレンジ85」を展開していきます。

■ センコーの健康増進活動

第1期	◆センコー健やか活動 自分の健康に関心を持つ
第2期	◆健やか活動チャレンジ85 運動の習慣化



個人の活動とともに、各地域ごとにウォーキングラリー等のイベントを実施。職場の親睦を深める機会にもなります。

産業保健スタッフによる健康支援を実施 従業員の健康を、細やかにサポート！

健康企業を目指すセンコーでは、各地の事業所で産業看護師が活躍しています。従業員の身近にいる親しみやすい存在として、様々な相談や健康教育、保健面接を通して健康管理をサポートしています。

産業看護師在籍事業所	
南関東業務センター	2名
東京本社	1名
中部業務センター	1名
関西業務センター	2名
延岡支店	1名
大阪本社	1名

CSR VOICE

ドライバーの安全意識の向上に有効です。

〈産業看護師〉
延岡支店 田中美香 社員

過重労働による健康障害防止の取り組みとして、産業医面接及び看護師による保健面接を毎月実施しています。対象者の多くがドライバー職であるため、特に疲労度やメンタル面への影響がないかなど細心の注意を払って、対象者との面談を心がけています。

また、社内外を問わず、家庭や仕事の悩みを抱え、メンタル不調に陥るケースが多くなってきていますので、メンタルヘルス活動の充実を図っていきたいと思います。



従業員との保健面接の様子(延岡支店)

「受動喫煙、禁煙キャンペーン」に多くの従業員が参加

センコーグループでは、従業員の健康向上を目的として、2009年度から「禁煙キャンペーン」を実施しています。これまでに371名が参加し、半数以上が禁煙を継続しています。

2011年度からは、社有車両での喫煙禁止をはじめ、屋内・館内の喫煙禁止の推進に取り組んでいます。今後もこの「禁煙活動」を推進するとともに、産業医・看護師等による健康障害防止教育を継続していきます。



禁煙宣言書

メンタルチェックを毎年実施

心の健康にも目を向け、「一次予防」に重点を置いたメンタルチェックを年に1度実施しています。仕事に対する考え方や捉え方、現在の状況・傾向を知ること、心の健康回復と仕事の効率アップを目指します。またチェック結果をもとに、支店ごとの傾向を確認し、その対応を検討しています。

さらに、社外相談機関とも契約し、従業員の様々な相談に応じる体制も整えています。



メンタルタフネス (メンタフ) チェック 質問・回答用紙

衛生・健康教育をさらに充実

心身ともに健やかな日々をおくっていただけるように、2010年度は以下の活動を行いました。

2011年度の活動計画としては、「関係会社従業員対象のメンタルヘルスセルフケア教育」「昇進・昇格者対象のメンタルヘルス教育」を実施する予定です。

■メンタルヘルス教育

●セルフケア教育

直営事業所の全従業員を対象に、DVD視聴を通して「ストレスの予防とケア」について教育を実施しました。



DVD「あなたと私のメンタルヘルス」

●管理者へのメンタルヘルスマネジメント教育

事務課長(準ずる管理者)を対象に、専門家によるメンタルヘルスマネジメント基礎I・IIを実施。部下のメンタルヘルス問題に対し、「適切にアプローチする方法」「部下のストレスマネジメント」について、事例検討やロールプレイ、講義を実施。



■新任職長(衛生管理者)対象の衛生教育

新任職長を対象に「衛生管理者の役割・職務について」の講義やグループ検討を行いました。

地域での社会貢献活動

地域の産業復興や雇用機会を促進する「福祉型農業事業」を展開しています

センコーの新しいビジネスモデルとして、鳥取県湯梨浜町に特例子会社「(株)センコースクールファーム鳥取」を設立し、2010年4月より障害者や高齢者の方々を雇用した福祉型農業事業を開始しています。

湯梨浜町で2006年に廃校となった羽合西小学校を利用して、ビニールハウスで青ネギの水耕栽培を、校舎の一部を改造した栽培施設で黄金タモギ茸の生産などを行っています。

この取り組みは、地域や社会への貢献を視野に入れた福祉型農業事業として各方面から注目されています。今後生産量の拡大や販売ルートの開拓に取り組むことで、さらに発展させていく考えです。



「黄金タモギ茸」などを栽培



グラウンドに設置した水耕栽培のビニールハウス

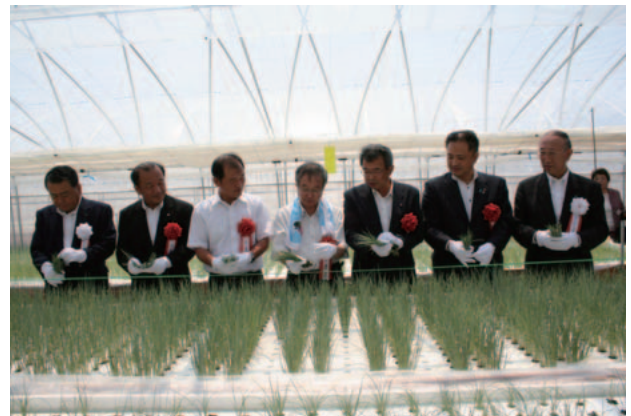


福田社長、手塚専務などと、センコースクールファーム鳥取のスタッフの皆さん。多くの方に雇用機会を提供する「福祉型農業事業」を展開しています

■ 2010年8月に「刈り入れ式」「収穫祭」を開催

農産物の初収穫を記念して8月20日に実施した刈り入れ式・収穫祭には、湯梨浜町および鳥取県の自治体関係者、地域住民の方々など約80名が参加。刈り入れ式では、福田社長が「海外展開も視野に県の農産物発展に貢献していきたい」と挨拶をされました。挨拶に続き、湯梨浜町の宮脇町長や鳥取県の藤井副知事をはじめ7名が青ネギの刈り入れを行いました。

引き続き行われた収穫祭では、黄金タモギ茸を使った様々な料理がふるまわれ、地域の皆さんによるフラダンスなども披露されるなど、参加者全員で初収穫を祝いました。



[刈り入れ式]



[収穫祭]

楽しく学ぶ「こども交通安全教室」を全国10箇所で開催しました

センコーは、事業活動を通じて培った交通安全のノウハウを、広く一般に役立てていただくための交通安全教室を2007年より実施しています。各営業所の安全運転トレーナーやクレフィール湖東のインストラクターが講師を務め、交通安全についての説明をするだけでなく、子どもたちに実際に体験してもらい交通知識を楽しく学んでいただくのがセンコー「こども交通安全教室」の特長です。実施営業所は毎年増え2010年度は10箇所になり、計298名の子どもたちが参加しました。

交通安全に関する様々なことを体験

子どもたちは、横断歩道の渡り方やトラックの内輪差、車両の死角など、体験を通じて交通安全の知識を学びました。また、保護者の皆さんには、講義を通じてシートベルトの機能の大切さなどを確認していただいています。

交通安全教室の会場には、大型トラックや緊急車両に触れるコーナーも設置。センコーのトラックに加え、地元警察や消防署のご協力のもと、パトカーや消防車、救急車などの乗車体験会を開催しています。普段はできないことが経験でき、子どもたちも大喜びでした。



案内役の「ピョンちゃん」と「とらのしん」は、子どもたちに大人気



トラックの巻き込み事故がどのように起こるかを解説(滋賀県)



安全な道路の渡り方を体験してマスター(三重県)

保護者の方の声

「幼稚園は通園バスでしたが、小学生になると徒歩通学なので安全教室に参加できてよかった」、「シートベルトの大切さ、小さなことでも大きな事故につながることを改めて実感した」などといった感想をいただいています。



運転席から「見えないところ」(死角)を実際に確認(奈良県)



日ごろは間近に見られない消防車に触れ、笑顔の子どもたち(神奈川県)



センコーのトラックの前で記念撮影(岡山県)

実施拠点

札幌主管支店(北海道) / 神奈川支店(神奈川県) / 埼玉主管支店(埼玉県) / 柏支店(茨城県) / 三重支店(三重県)
京滋主管支店(滋賀県) / クレフィール湖東(滋賀県) / 大阪主管支店(奈良県) / 岡山主管支店(岡山県) / 延岡支店(宮崎県)

スポーツ活動への積極的な支援を行っています

「センコー柔道部」は2008年4月の創部以来、実業団団体・個人大会での活動を展開し、その実力は年々高く評価されています。2010年に行われた「第60回全日本実業柔道団体対抗大会」では3部で準優勝をおさめ、創部以来の目標であった2部昇格を果たすとともに、「第47回東日本実業柔道団体対抗大会」では2部において優勝。石本選手、駒瀬選手は本大会の「優秀選手」として表彰を受けました。これからもチーム強化はもちろんのこと、実業団柔道大会や全日本大学学生柔道大会などの特別協賛を通じて、スポーツ振興のために積極的に活動していきます。



応援団とともに



一本を決める鈴木選手

また、柔道部OBの菅井社員は地元のスポーツ少年団に所属する小学生に、柔道を通して礼儀などの躰指導を行い、子どもたちだけでなく保護者の方々からも厚い信頼を受けています。このような地域の皆様とのふれあい活動も積極的に推進していきます。



小学生に指導する菅井社員

家族との絆を深める機会にもなる「子ども職場参観」

社員が子どもや家族に働く姿を見てもらう機会となるのが「子ども職場参観」です。仕事への理解を深めてもらうことで、家庭内のコミュニケーションを深め、また社員のモチベーション向上につなげています。2010年度は5ヶ所で開催し、職場見学や物流の仕事を実感していただきました。「リフト操作が上手で驚いた」「仕事は皆の協力ができないのだなと思った」と、子どもたちは色々な発見をしたようです。今後は全国の事業所に水平展開し、会社を上げて家族の絆づくりやワーク・ライフ・バランス実現に向けた取り組みを推進していく考えです。



フォークリフトについての説明に興味津々!



テレビ電話によるIT点呼を体験



お父さんのいつもと違う姿を見つめる子どもたち



守山PDセンターの「子ども職場参観」

クレフィール湖東で「囲碁フェスティバル」を実施

センコーは2006年より「囲碁フェスティバル」を開催し、地域の文化活動促進を図っています。9月12日に開催した第5回大会には、3年連続で女流棋聖のタイトルを獲得された梅沢由香里五段と、NHK杯囲碁トーナメントの間き手を務められた万波佳奈四段を招いて、「指導碁」や「囲碁クリニック」などを実施。指導碁では、アマチュア有段者8名がプロ棋士との対局に挑み、囲碁クリニックでは、会場内に中継された16組の対局をプロ棋士が来場者の前で解説・指導しました。また、「囲碁トーナメント」には小学生からお年寄りまで32名が参加し、約130名の囲碁ファンが世代を超えて交流を深めました。



「指導碁」でプロ棋士との対局に挑戦



万波佳奈四段が指導

「戦略的ロジスティクス」について講演

(社)日本路線トラック連盟・近畿地区連盟が、(社)日本ロジスティクスシステム協会等と共催する「戦略的ロジスティクス講演会」で、当社の福田社長が講演を行いました。「物量に頼らない収益向上、トータルコスト削減を目指して」をテーマに、「センコーの3PL戦略」について説明。業界のリーディングカンパニーとして、当社の事業戦略と今後の展望を伝えました。



8月4日、大阪コロナホテルにて講演

「職場見学」の受け入れを継続しています

センコーでは、地元の中学生・高校生の「職場見学」の受け入れを行っています。茨城支店の「職場見学」では、7月23日と29日に、総和南中学校の1年生4名が、茨城ハウス営業所と茨城PDセンターを見学しました。同校では、生徒が進路を考えるきっかけとして、働く人々とのコミュニケーションを通じて、学校では学べない「働くことの意味」や「実際の社会」の理解を促すことを目的に、職場見学を行っています。

当日は、山室職長(茨城ハウス営業所)や田中係長、北條さん(ともに茨城PDセンター)が、会社や営業所の事業概要、物流の基礎知識について説明した後、実際の現場を見学してもらいました。

参加した中学生からは、倉庫の品数の多さや敷地の広さ、トラックの大きさに驚きの声があったほか、「皆さんが真剣に働く姿が印象的でした」「私もやりたい仕事ができるようがんばります」との感想が寄せられました。茨城支店では、今後もこのような地域に密着した社会貢献活動を続けていきます。



参加した中学生とともに記念撮影



業務を分かりやすく説明する田中係長。
参加者からは、「分かりやすく質問に答えてもらい勉強になりました」と好評でした

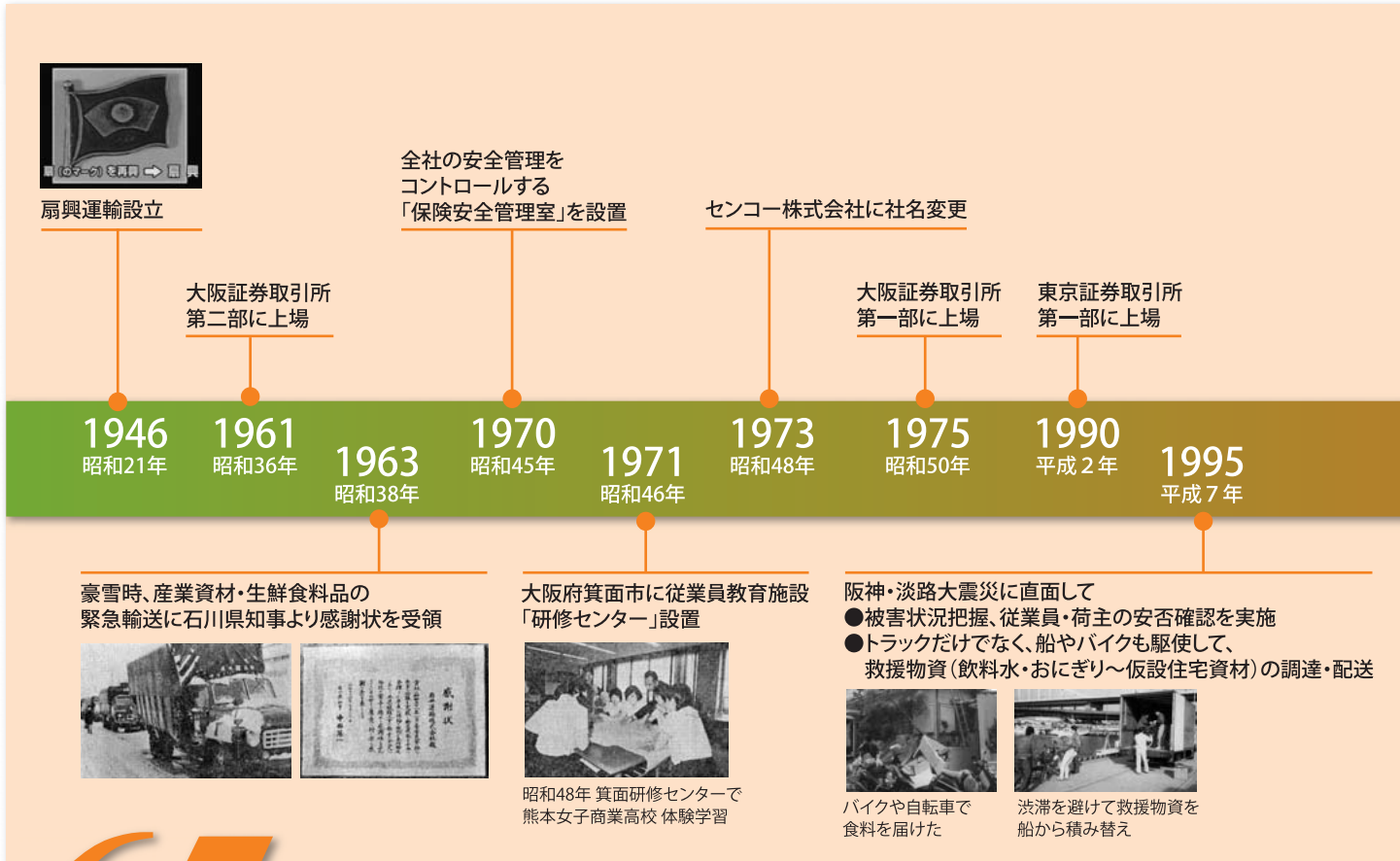


社会から信頼されるセンコーであるために—

センコー・CSR活動の歩み

センコーは今年創立65周年を迎えます。

社会にさらに貢献できる企業グループとなるために、チェンジ&チャレンジを継続します。



65周年を迎えて。さらに、チェンジ&チャレンジ!



笑顔があふれる健康職場をつくり、お客様へ本当に良いサービスを提供します

センコー株式会社
安全環境管理部 健康推進グループ
伊月 由季



お客様に信頼され、期待される会社を目指したい! 当り前の事をきちんとできる人になりたい!

センコー株式会社
仙台北支店 東北RDC構内担当
富田 耕吉



Nothing ventured, nothing gained! 失敗を恐れず思い切って行動していきたい

センコー株式会社
ケミカル物流営業本部 ケミカル物流第2営業部
小川 裕子



悩んで学んで生かす。勇気を持って繰り返していきたいです

センコー株式会社
埼玉主管支店 浦和PDセンター
杉山 喜康



物流を越える、世界を動かす、ビジネスを変える。僕たちの世代から!

センコー株式会社
国際物流事業本部 企画管理部
北村 真二



お客様から感動される職場を目指して、チェンジ&チャレンジ

センコー株式会社
大阪主管支店 東大阪第1PDセンター
西原 美知子



- 総合交通・物流研修施設「クレフィール湖東」を開設
- 翌年にクレフィール湖東が「第18回国際交通安全学会賞」を受賞
- 中国初の合併会社「大連保税区貝思特国際貿易物流有限公司」が営業開始

- 第1期「環境マスタープラン(2001~2003)」策定
- 名古屋支店が当社初のISO14001認証取得

センコー情報システム
プライバシーマーク取得



- CSR推進委員会設置
- 初回「CSR報告書」発行
- 水島物流センターに太陽光発電設備導入



- コーポレートスローガン「Moving Global」を制定
- 第7回「エコプロダクツ大賞」でCO₂大幅削減効果を評価され、国土交通大臣賞受賞
- 特例子会社「センコースクールファーム鳥取」を設立
福祉型農業ビジネスに参入

1996
平成8年

1998
平成10年

2000
平成12年

2001
平成13年

2002
平成14年

2005
平成17年

2006
平成18年

2008
平成20年

2010
平成22年

日本物流団体連合会から
「第1回物流環境啓蒙賞」を受賞

- 安全品質強化と環境対策に取り組む
「安全環境管理部」を設置
- 船舶安全管理システムの国際規格「ISM」の適合認定取得

初回
「環境・安全報告書」
発行



- こども交通安全フェスタ(交通安全教室)、
囲碁フェスティバル開催開始
- 第1回センコーグループ技能コンテスト全国大会開催
- 働きやすい職場環境づくりの一環として事業所内保育園
第1号を大阪府泉大津市に設置



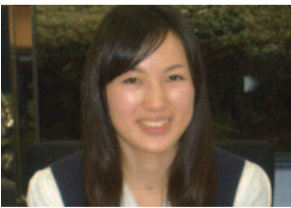
ドライバー目線からお客様目線に
チェンジ&チャレンジ
「目立たない」やさしい運転に
チェンジ&チャレンジ

センコー株式会社
延岡支店 車輛営業所 第2車輛係
清野 秀樹



いつも笑顔の接客で、
お客様を幸せに変えていく
私でありたい

株式会社クレフィール湖東
ホテル事業部
澤村 亜耶



過去から未来へ。
全社一丸となり、
新たな企業価値を生みだしたいです

センコー商事株式会社
商事事業部 商事営業グループ
片山 奈美



顧客視点を実践すること。
チームの使命につながる発想で
行動したい

ロジ・ソリューション株式会社
コンサル第5グループ
福田 浩貴



現状の体制・仕組みを批判視して、
新しい目標にチャレンジしたい!

北陸センコー運輸株式会社
本社営業所
山田 茂之



海外でも同じ。
お客様にご満足いただけるよう
自分を成長させます!

大連三興物流有限公司
国際物流部
岩田 和子

センコー株式会社

お問い合わせ先

センコー株式会社 CSR 推進グループ

〒531-6113

大阪市北区大淀中1-1-30-1300 梅田スカイビル タワーウエスト13F

TEL.06-6440-5190 FAX.06-6440-5198

URL <http://www.senko.co.jp>

ECO-PULP



エコパルプ



この報告書は、環境への配慮のため、用紙には無塩素漂白のエコパルプを、また印刷には植物油インキを使用しております。

2011年6月発行

